

障がい児福祉に関する アンケート調査 調査結果速報

2020年8月26日

一般財団法人
新潟経済社会リサーチセンター

目次

1. 調査概要と回答者の基本情報	2
2. 障がいの状況	10
3. 住まいや暮らしの状況	19
4. 現在の保育・就学状況と進学等の状況	25
5. 普段の相談の状況	33
6. 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定	36
7. 権利に関することについて	43
8. 災害時の避難などについて	46

1. 調査概要と回答者の基本情報

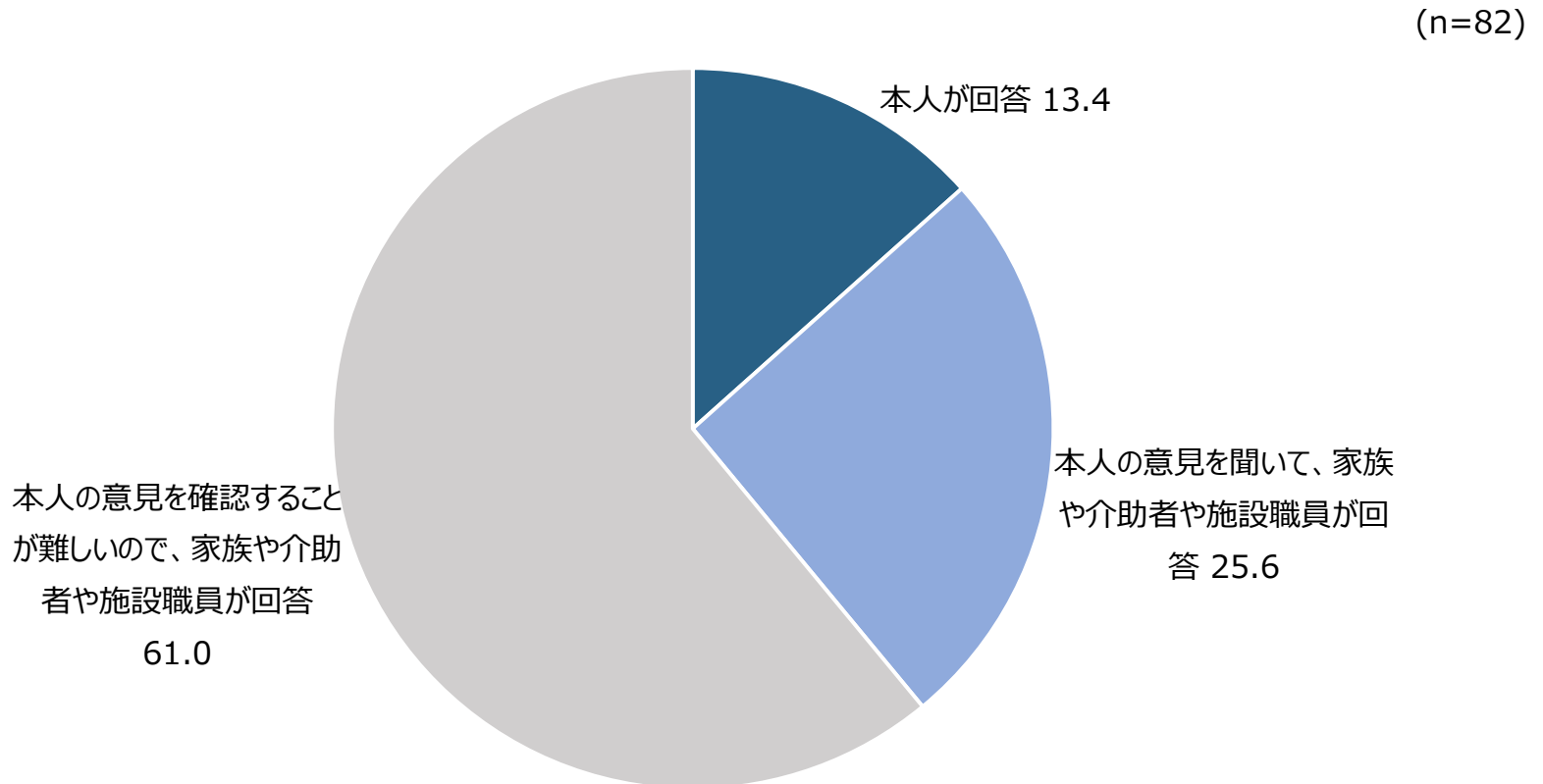
1.1 調査の概要

■ 調査の概要は以下のとおりである。

項目	内容
1. 調査名称	障がい児福祉に関するアンケート調査
2. 調査目的	市民の福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向などを把握し、計画策定や施策推進に役立てることを目的にアンケート調査を実施
3. 調査項目	(1) 回答者の基本情報 (2) 障がいの状況 (3) 住まいや暮らしの状況 (4) 現在の保育・就学状況と進学等の状況 (5) 普段の相談の状況 (6) 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定 (7) 権利に関することについて (8) 災害時の避難などについて
4. 調査対象	佐渡市で福祉サービスを利用している障がい児 121人
5. 調査期間	令和2年6月30日～8月14日
6. 調査方法	郵送法
7. 調査主体	佐渡市
8. 調査実施機関	一般財団法人新潟経済社会リサーチセンター
9. 回収結果	令和2年8月14日時点での有効回答数（回答率） 82票（67.8%）
10. その他	集計結果は無回答を除いている。また、四捨五入の関係で内訳の合計が100%にならない場合がある

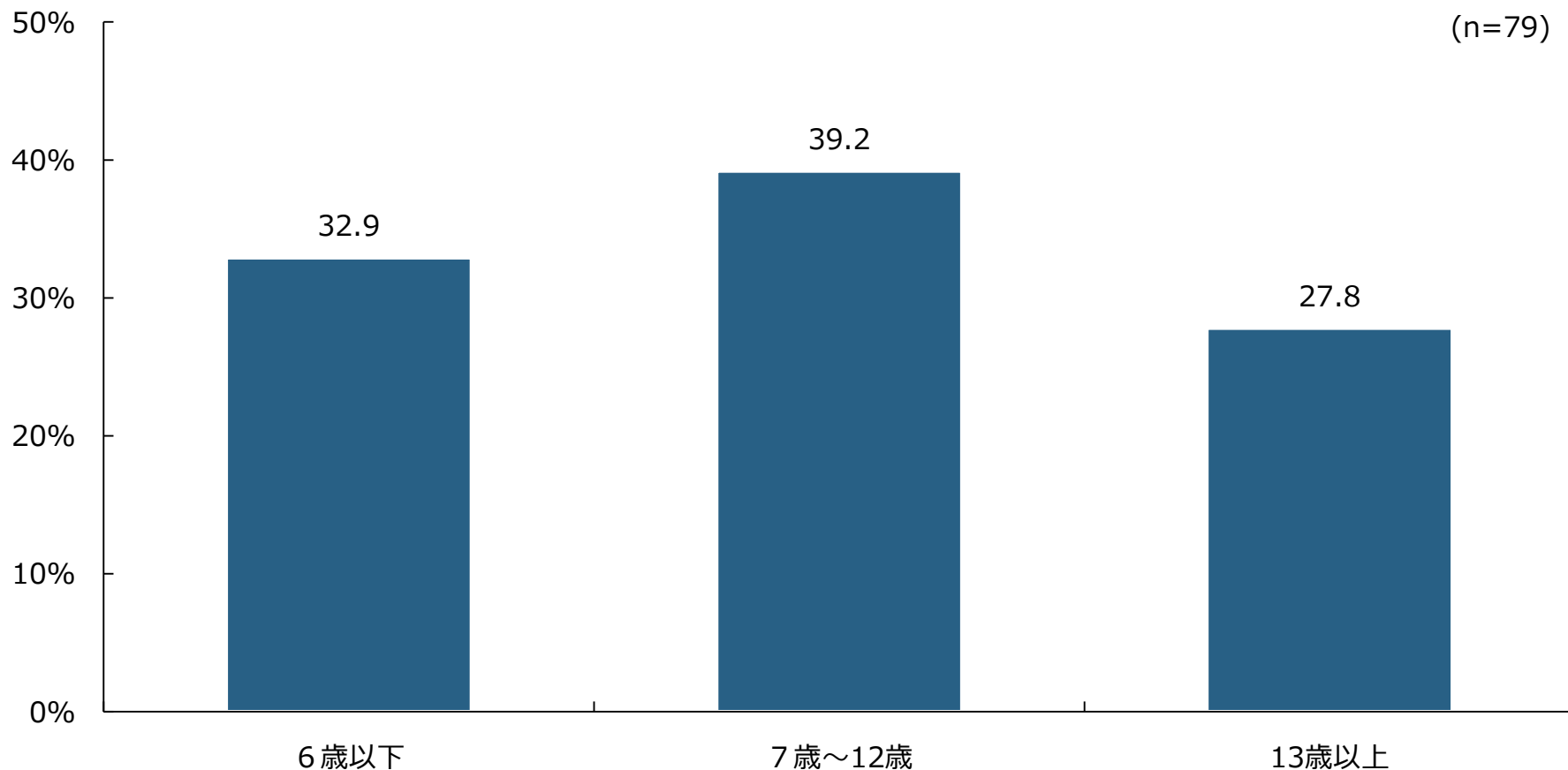
1.2 本人が回答は1割強

- 今回の調査票に回答した人を尋ねたところ、「本人の意見を確認することが難しいので、家族や介助者や施設職員が回答」（61.0%）の割合が約6割で最も高く、次いで「本人の意見を聞いて、家族や介助者や施設職員が回答」（25.6%）が2割台半ばとなっている。
- 一方、「本人が回答」（13.4%）の割合は1割強にとどまっている。



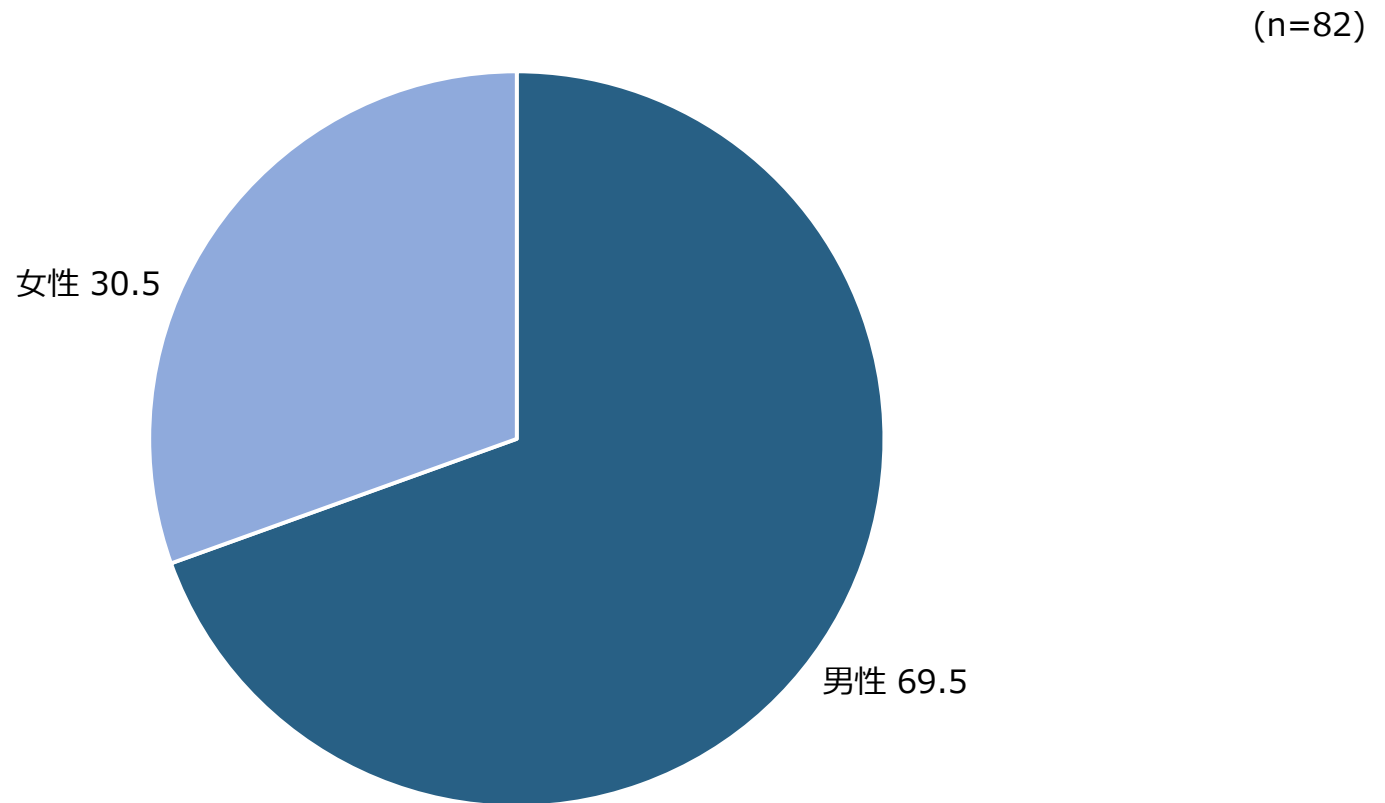
1.3 未就学児と小学生の年代が7割強

- 今回の調査対象となる人の年齢を尋ねたところ、「6歳以下」(32.9%)の割合が3割強、「7歳～12歳」(39.2%)が約4割、「13歳以上」(27.8%)が3割弱となっている。
- 未就学児(6歳以下)と小学生(7歳～12歳)を合わせると7割強となる。



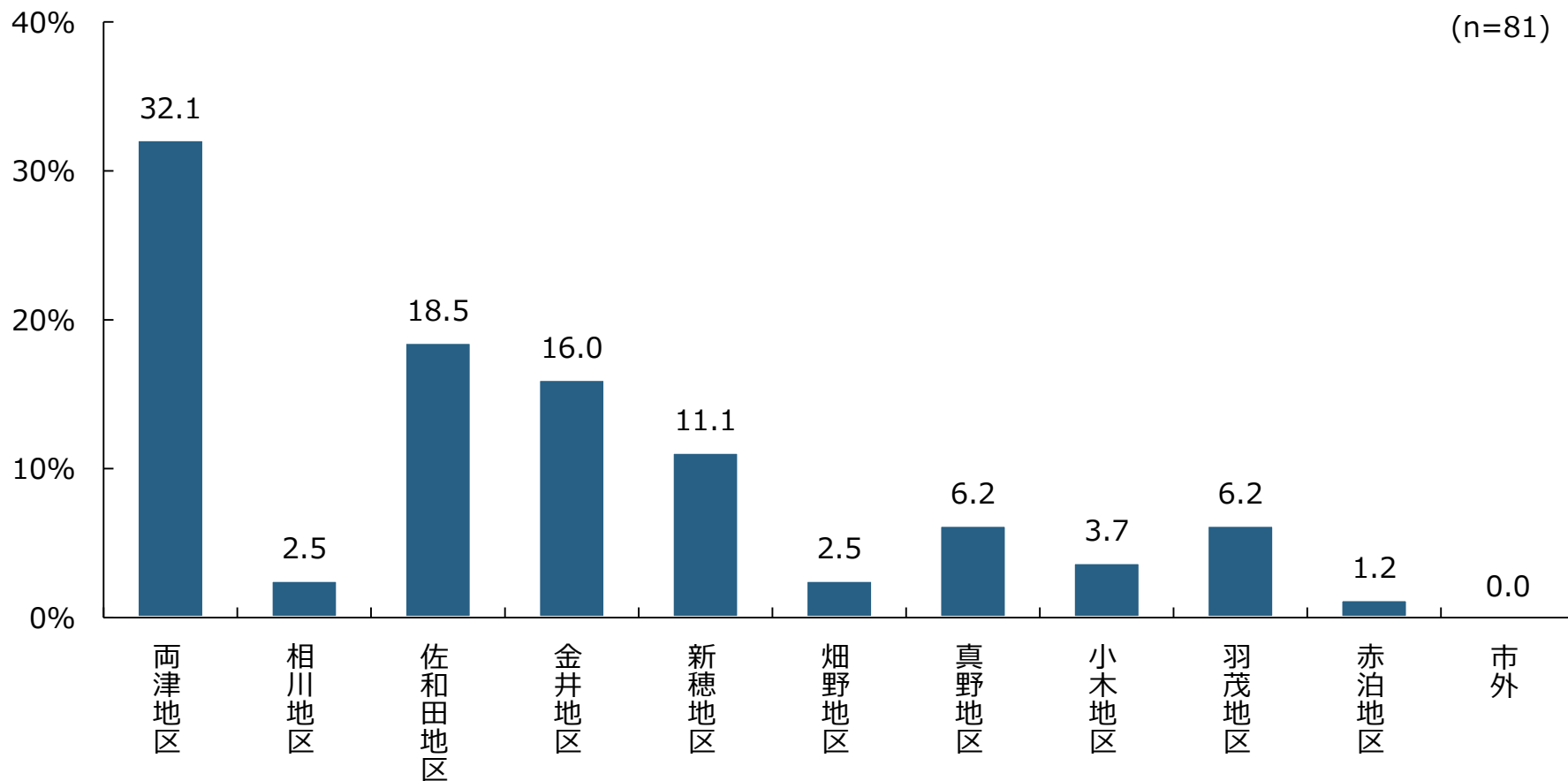
1.4 男性が約7割、女性が約3割

- 今回の調査対象となる人の性別を尋ねたところ、「男性」（69.5%）の割合が約7割で、「女性」（30.5%）を上回っている。



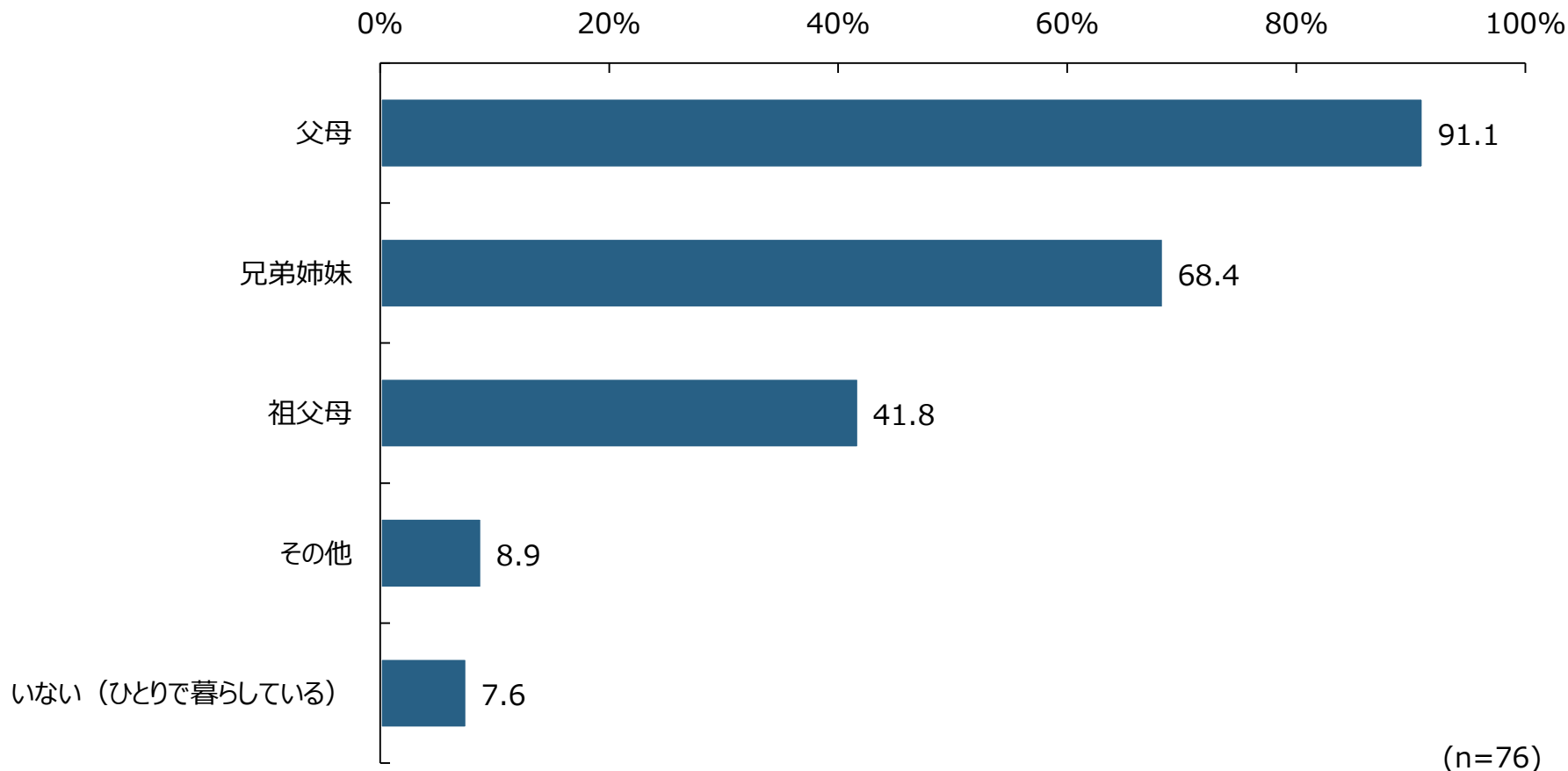
1.5 両津地区の回答割合が最も高い

- 今回の調査対象となる人の居住地区を尋ねたところ、「両津地区」(32.1%)の割合が最も高く、以下「佐和田地区」(18.5%)、「金井地区」(16.0%)、「新穂地区」(11.1%)、「真野地区」「羽茂地区」(各6.2%)などとなっている。



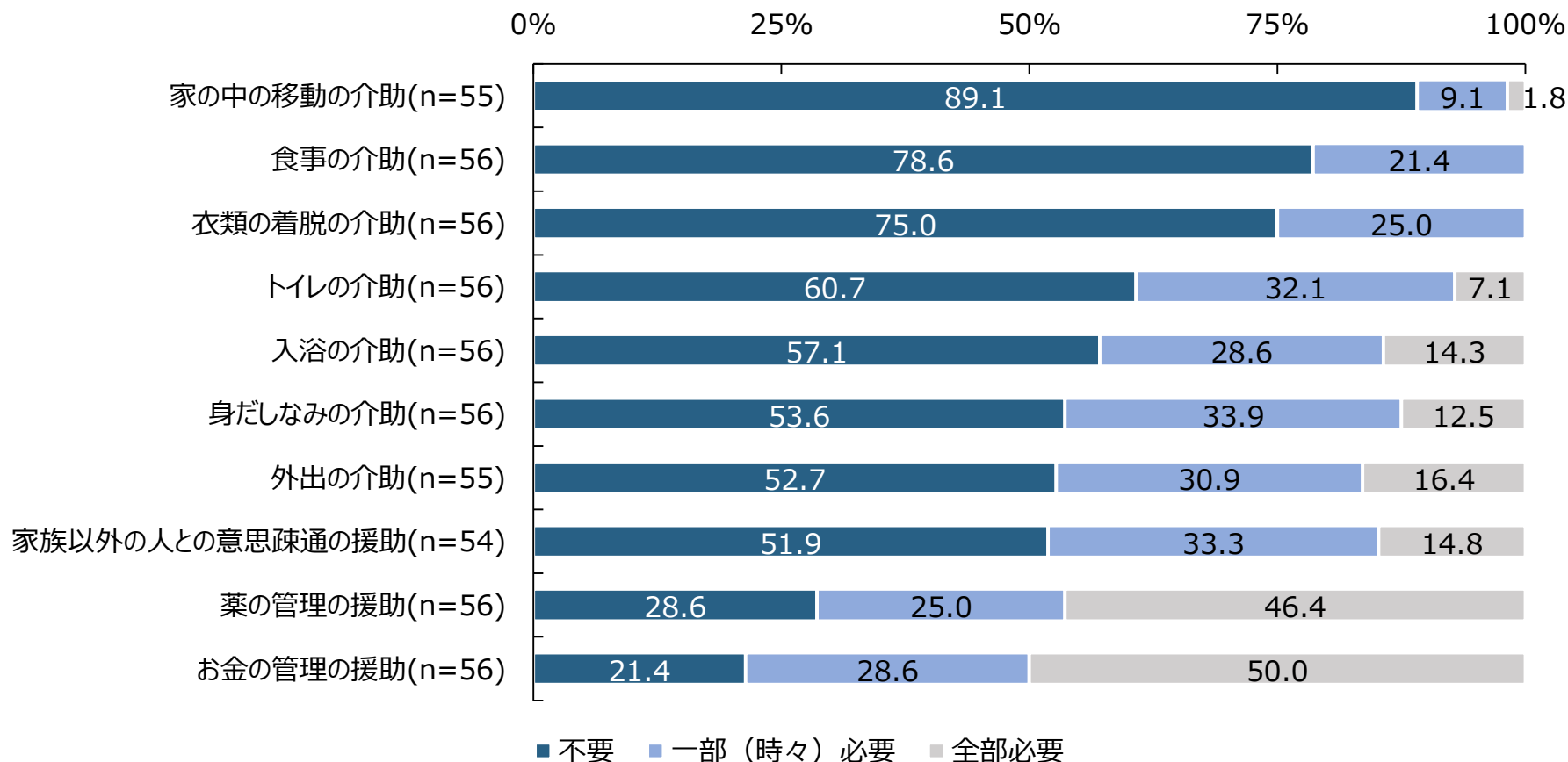
1.6 同居家族は父母と兄弟姉妹、祖父母が大半

- 同居家族の状況を尋ねたところ（複数回答）、「父母」（91.1%）の割合が特に高く、以下「兄弟姉妹」（68.4%）、「祖父母」（41.8%）、「その他」（8.9%）となっている。
- 一方、「いない（ひとりで暮らしている）」とする割合は7.6%となっている。



1.7 支援が必要なのはお金や薬の管理

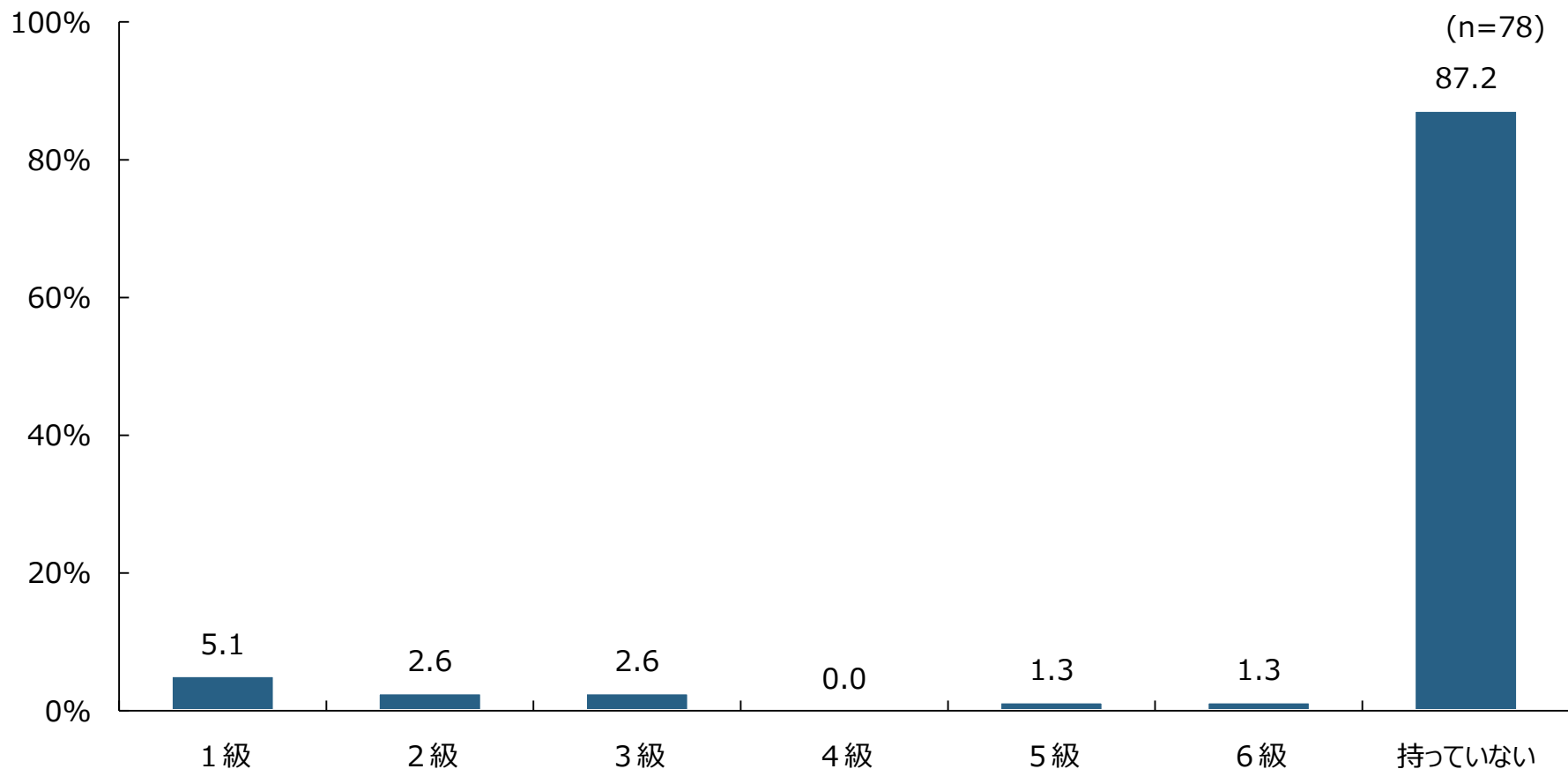
- 小学生以上の人に、日常生活の中の『食事の介助』～『薬の管理の援助』の10項目について、支援が必要か否かを尋ねたところ、支援が「不要」の割合が高い項目としては『家の中の移動の介助』『食事の介助』『衣類の着脱の介助』などの順となっている。
- 一方、支援が「一部（時々）必要」と「全部必要」を合わせた割合が高い項目としては『お金の管理の援助』『薬の管理の援助』『家族以外の人との意思疎通の援助』『外出の介助』などの順となっている。



2. 障がいの状況

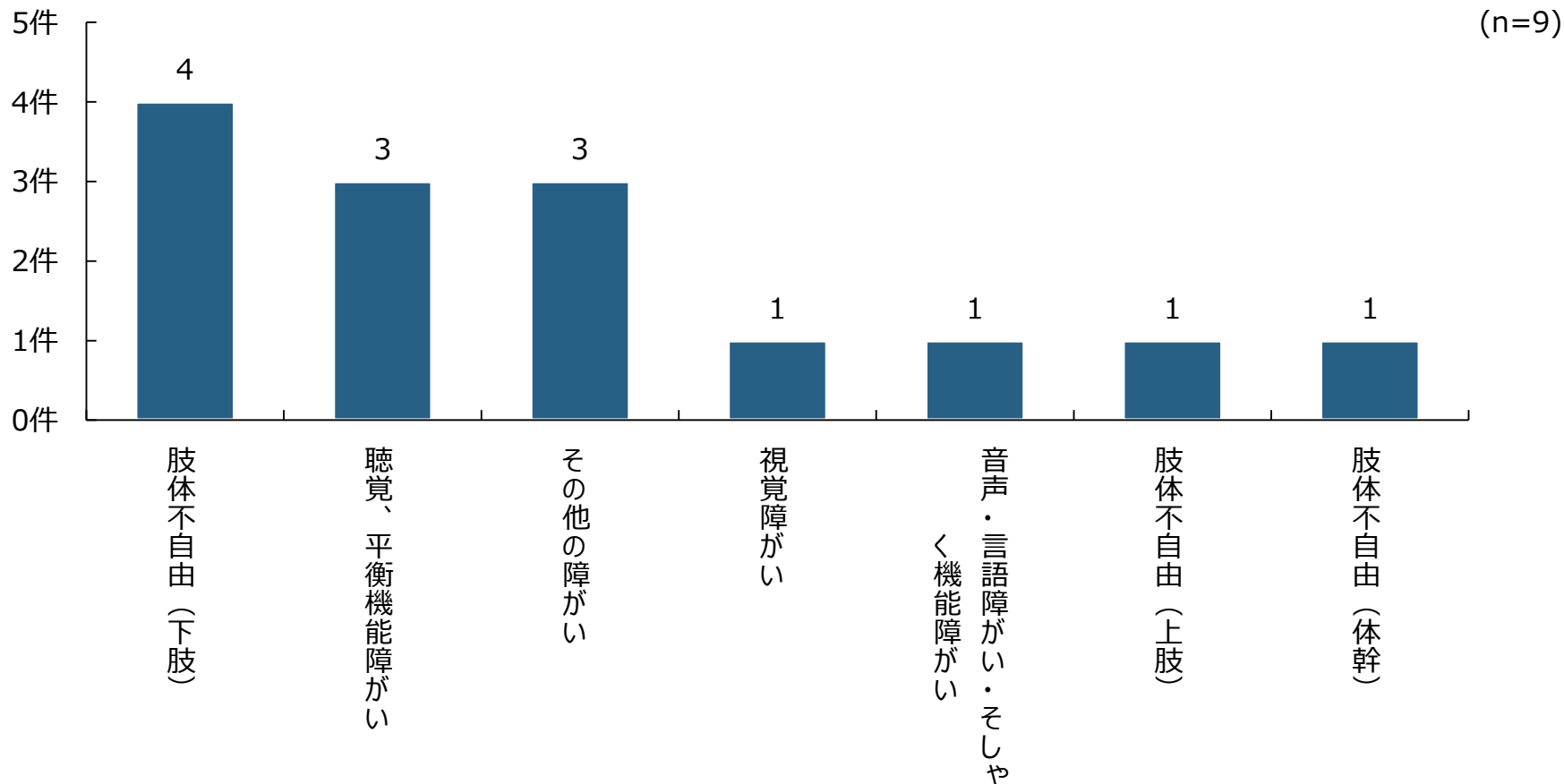
2.1 身体障害者手帳は持っていない人が8割台半ば

- 身体障害者手帳を持っているか否かを尋ねたところ、「持っていない」（87.2%）とする割合が8割台半ばで最も高くなっている。
- 一方、身体障害者手帳持っている人では「1級」（5.1%）、「2級」「3級」（各2.6%）、「5級」「6級」（各1.3%）の順となっている。



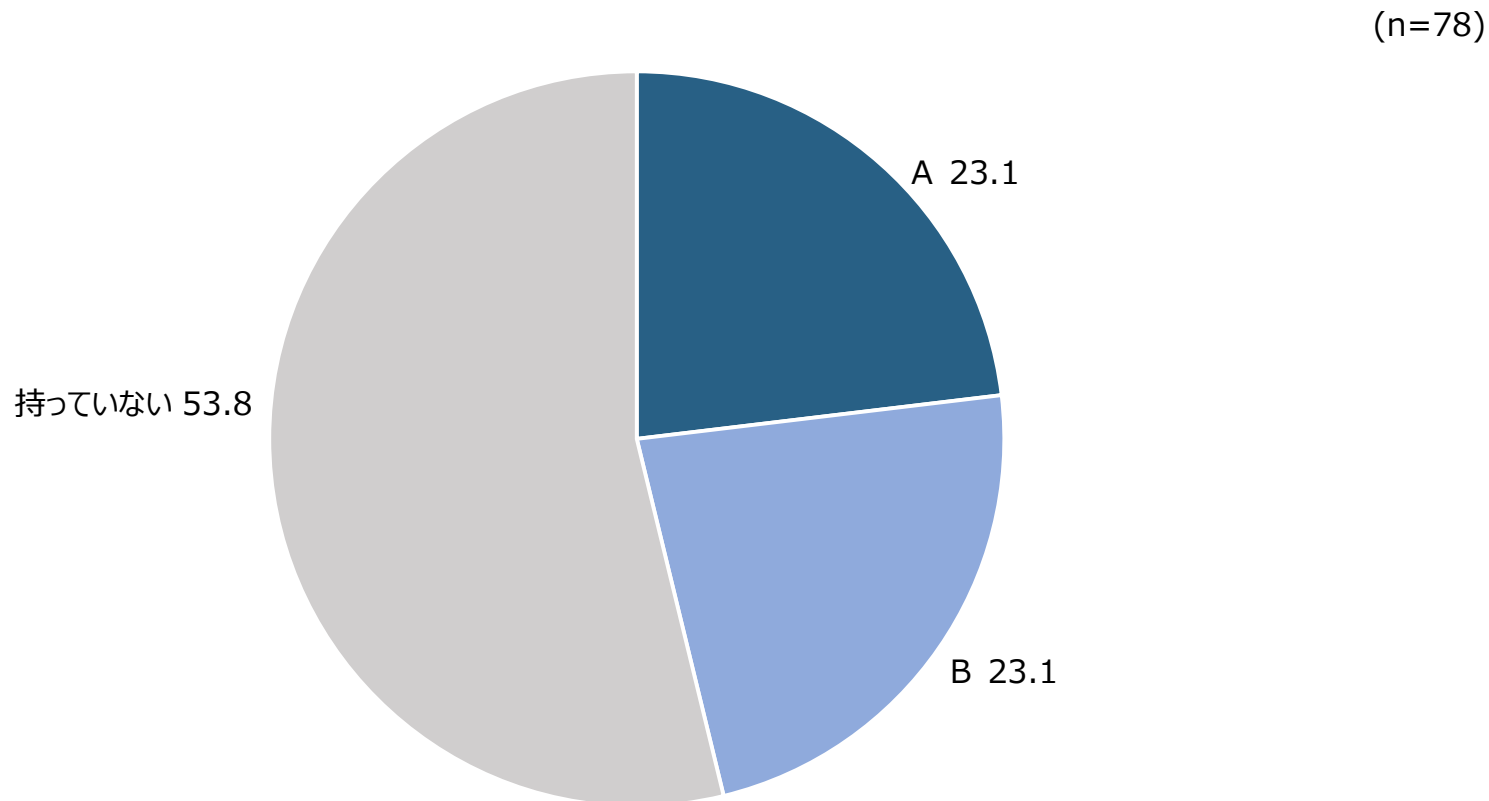
2.2 肢体不自由(下肢)の障がいが多い

- 身体障害者手帳を持っていると回答した人に主たる障がいを尋ねたところ（複数回答）、「肢体不自由（下肢）」の件数が4件で最も多く、次いで「聴覚、平衡機能障がい」「その他の障がい」（各3件）などとなっている。



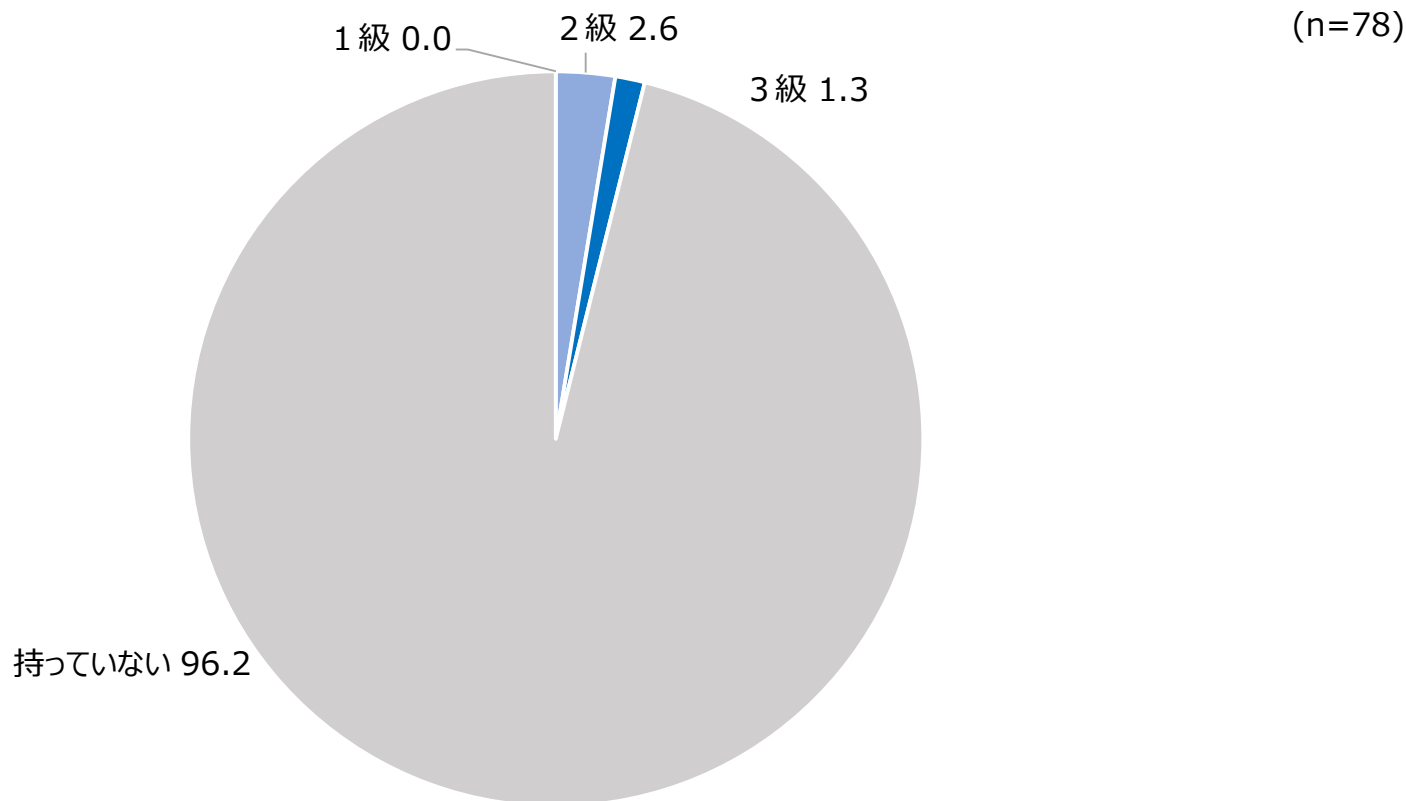
2.3 療育手帳の所有者はA・Bとも2割台半ば

- 療育手帳を持っているか否かを尋ねたところ、障がいの程度が重度の「A」と障がいの程度がA以外の「B」（各23.1%）がともに2割台半ばとなっている。
- 残りの5割台半ばが「持っていない」（53.8%）としている。



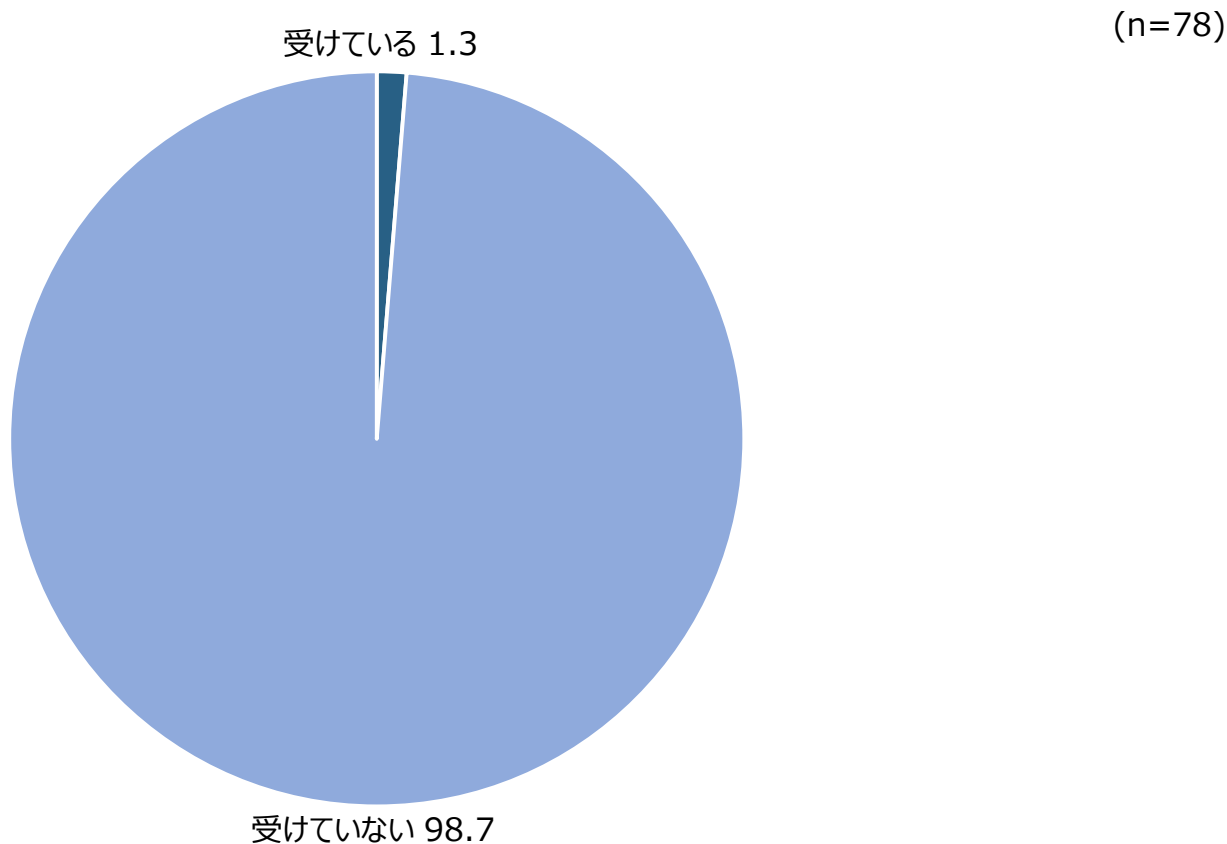
2.4 精神障害者保健福祉手帳は持っている人は1割に満たない

- 精神障害者保健福祉手帳を持っているか否かを尋ねたところ、「持っていない」(96.2%)とする割合が9割台半ばとなっている。
- 一方、精神障害者保健福祉手帳持っている人では「2級」(2.6%)、「3級」(1.3%)、「1級」(0.0%)の順となっている。



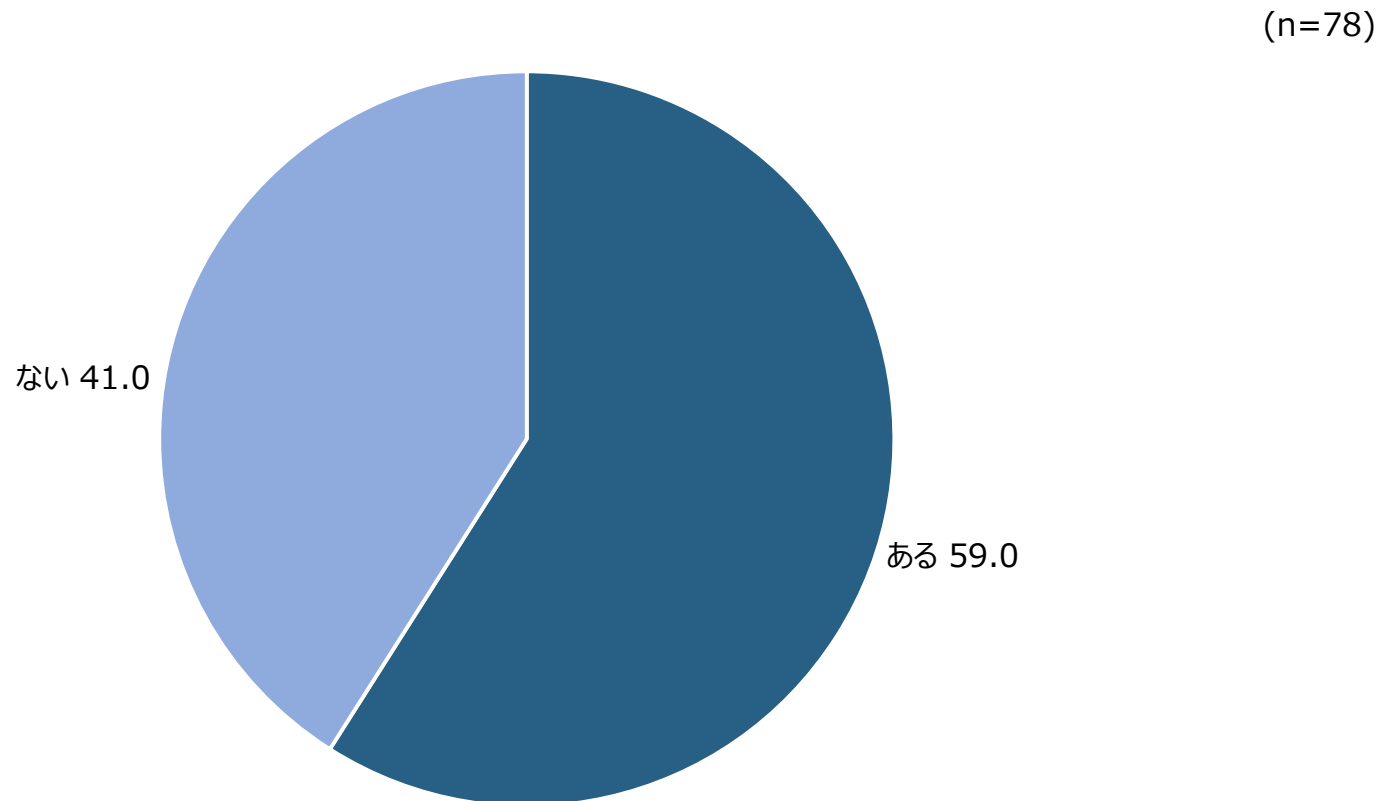
2.5 指定難病の認定は少数

- 難病（筋萎縮性側索硬化症〔ALS〕やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病やその他の特殊な疾病などの指定難病）の認定の有無を尋ねたところ、「受けている」とする割合は1.3%にとどまり、「受けていない」（98.7%）がほとんどとなっている。



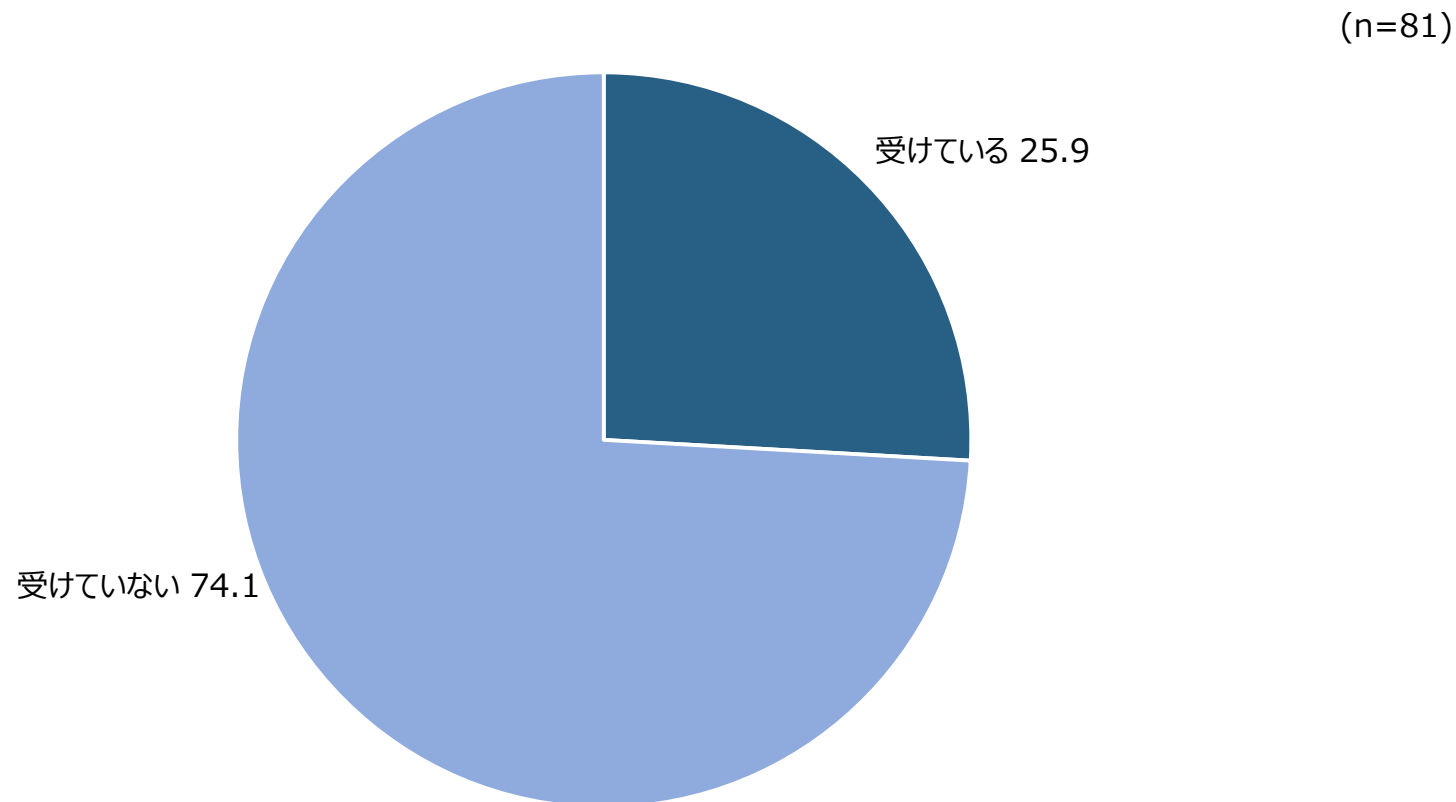
2.6 発達障がいと診断されたことのある人は6割強

- 発達障がいと診断されたことの有無を尋ねたところ、「ある」（59.0%）とする割合が約6割となっている一方で、「ない」（41.0%）とする割合は約4割となっている。



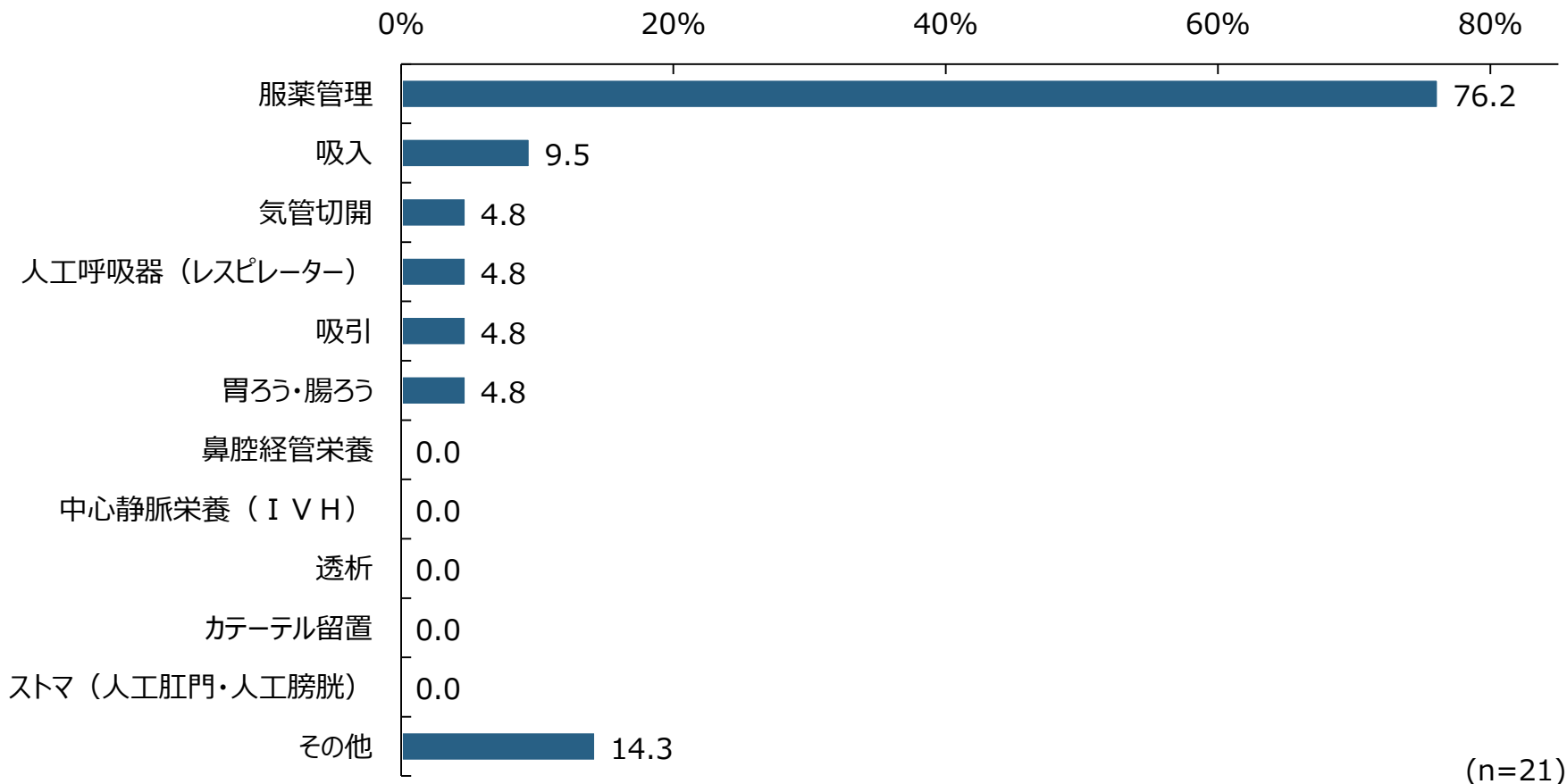
2.7 医療的ケアの受診者は2割台半ば

- 現在、医療的ケアを受けているか否かを尋ねたところ、「受けている」（25.9%）とする割合が2割台半ば、「受けていない」（74.1%）とする割合が7割台半ばとなっている。



2.8 医療的ケアについては服薬管理がほとんど

- 現在、医療的ケアを受けていると回答した人に、医療的ケアの内容を尋ねたところ（複数回答）、「服薬管理」（76.2%）の割合が特に高くなっている。以下「その他」（14.3%）、「吸入」（9.5%）、「気管切開」「人工呼吸器（レスピレーター）」「吸引」「胃ろう・腸ろう」（各4.8%）などとなっている。
- 「その他」の具体的な内容としては、「リハビリ療育」「OT（作業療法）」「心臓の定期検診」などが挙げられている。

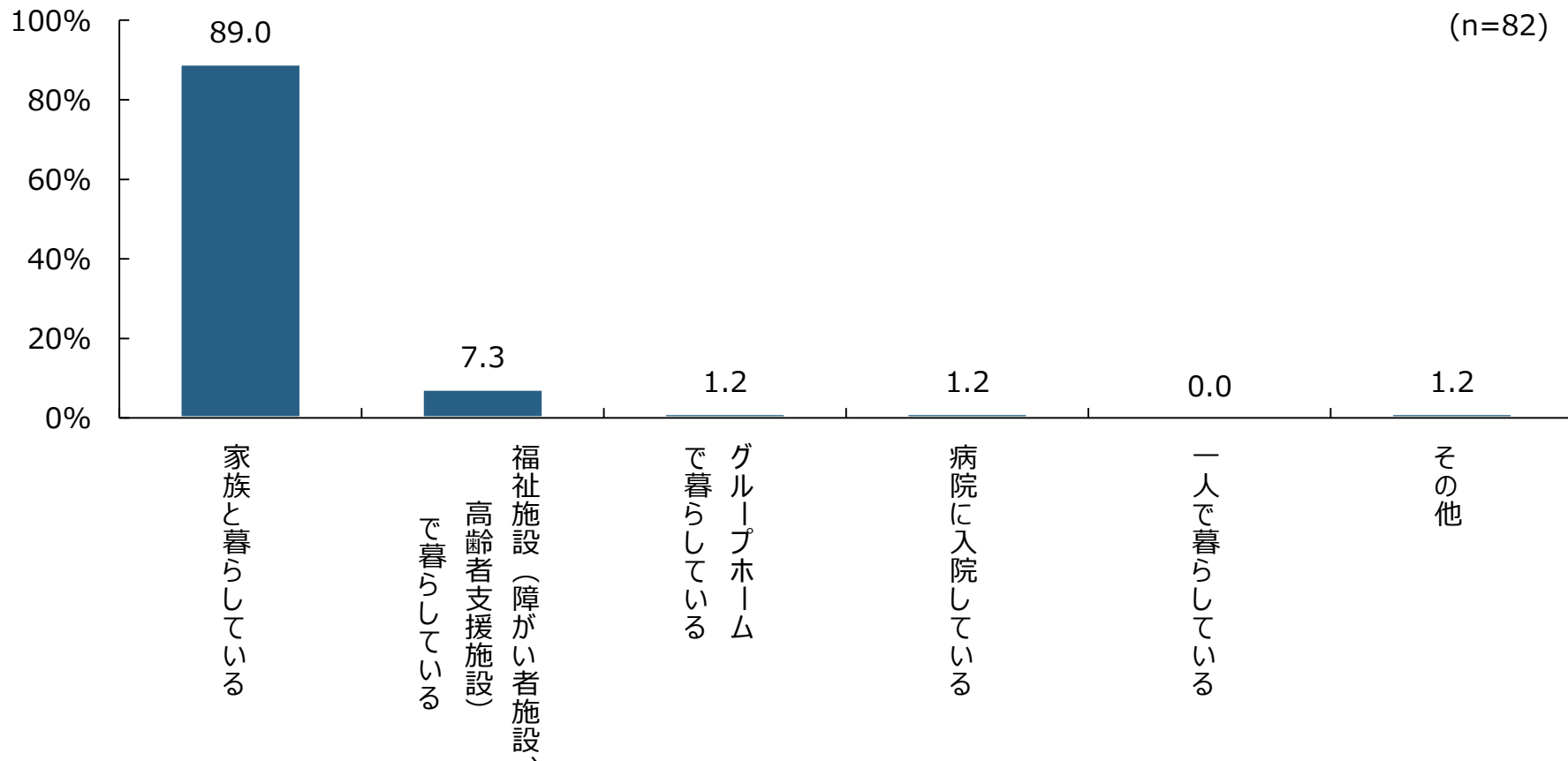


(n=21)

3. 住まいや暮らしの状況

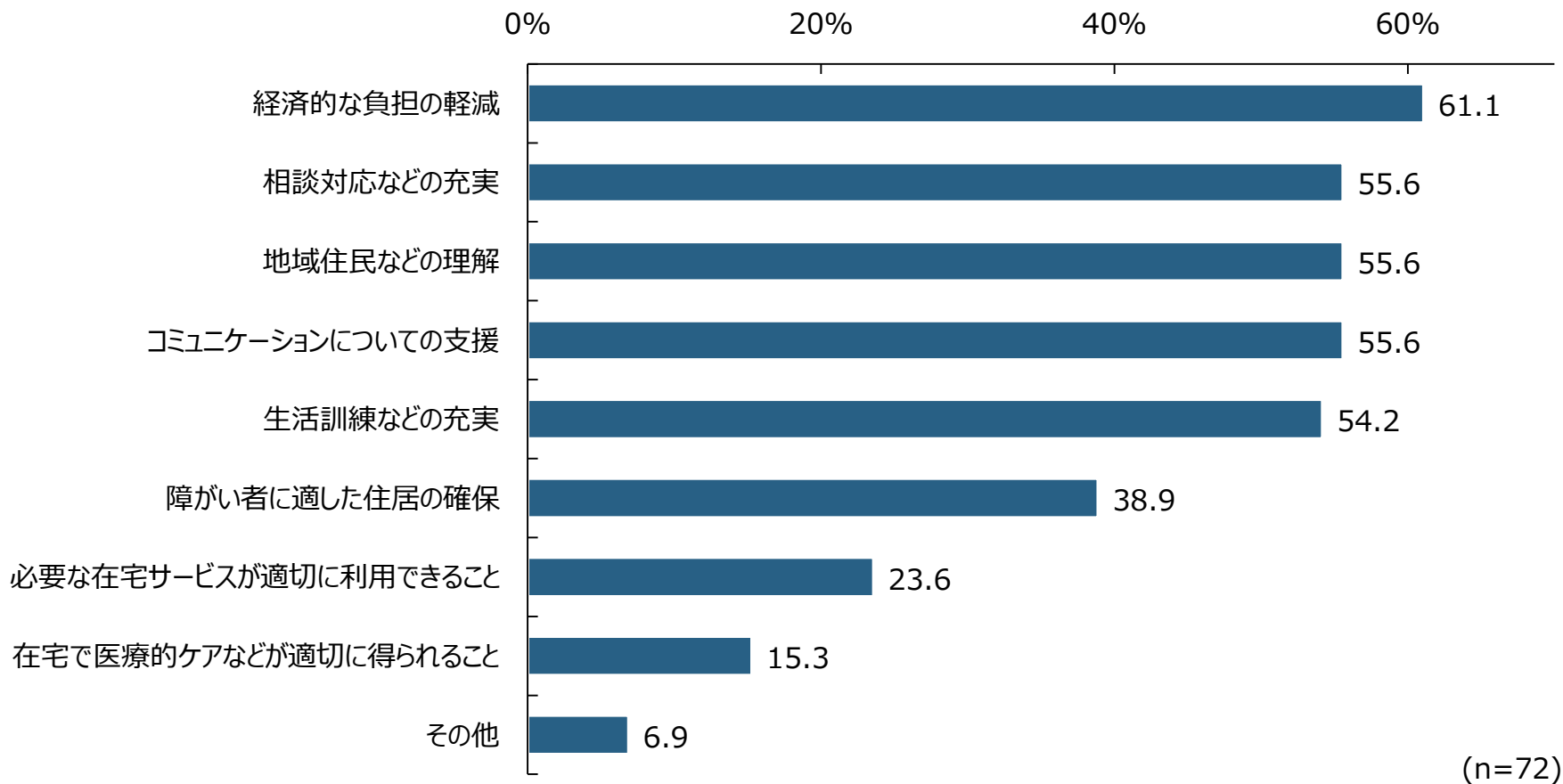
3.1 家族と暮らしている人が約9割

- 現在の暮らしぶりを尋ねたところ、「家族と暮らしている」（89.0%）とする割合がほとんどとなっている。残りの人は「福祉施設（障がい者施設、高齢者支援施設）で暮らしている」（7.3%）、「グループホームで暮らしている」「病院に入院している」「その他」（各1.2%）などとなっている。



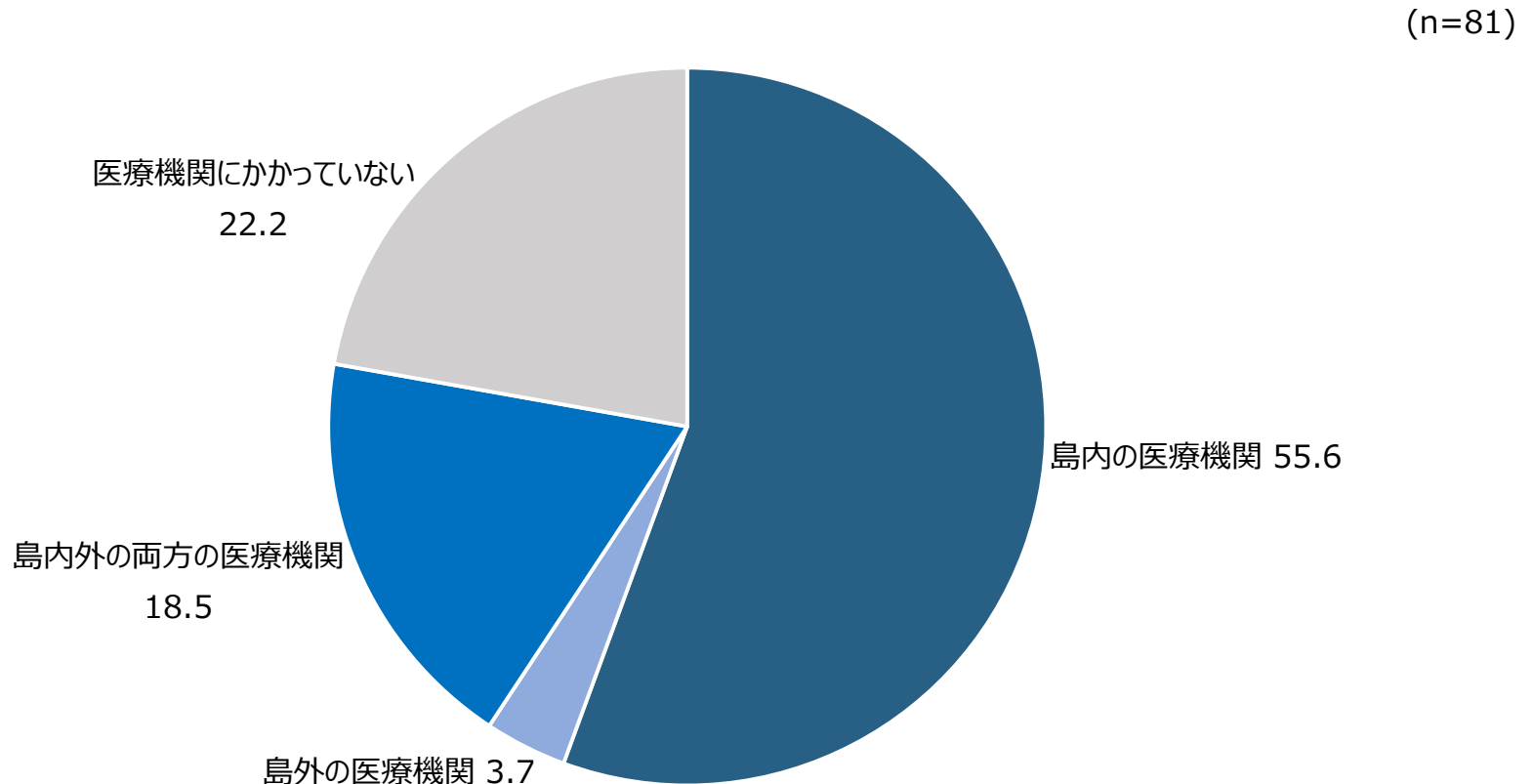
3.2 経済的な負担の軽減を望む割合が最も高い

- 希望する暮らしを送るために望む支援を尋ねたところ（複数回答）、「経済的な負担の軽減」（61.1%）の割合が最も高く、以下「相談対応などの充実」「地域住民などの理解」「コミュニケーションについての支援」（各55.6%）、「生活訓練などの充実」（54.2%）などとなっている。
- 「その他」（6.9%）の具体的な内容としては、「本人の仕事」「療育を受けるための施設数が少なく、選択の余地がない」「父母が亡くなった後の支援」「今は分からない」などが挙げられている。



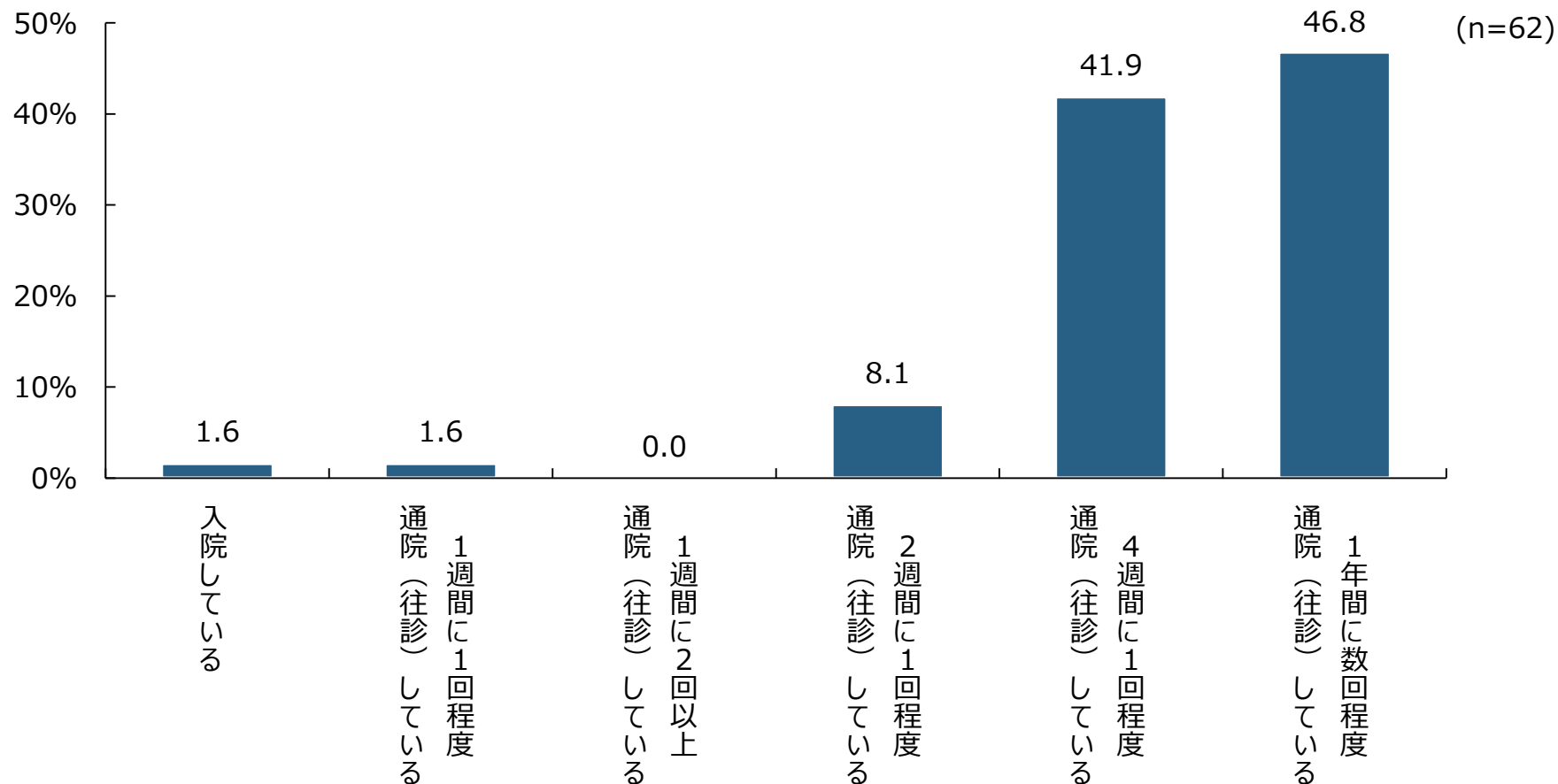
3.3 島内の医療機関のみの利用は5割台半ば

- 現在の医療機関（主に定期的に利用する）の利用状況を尋ねたところ、「島内の医療機関」（55.6%）とする割合が5割台半ばを占めている。加えて「島外の医療機関」が3.7%、「島内外の両方の医療機関」が18.5%となっており、これら3つを合わせた『医療機関にかかっている』（77.8%）とする割合は8割弱となっている。
- 一方、「医療機関にかかっていない」（22.2%）とする割合は2割強となっている。



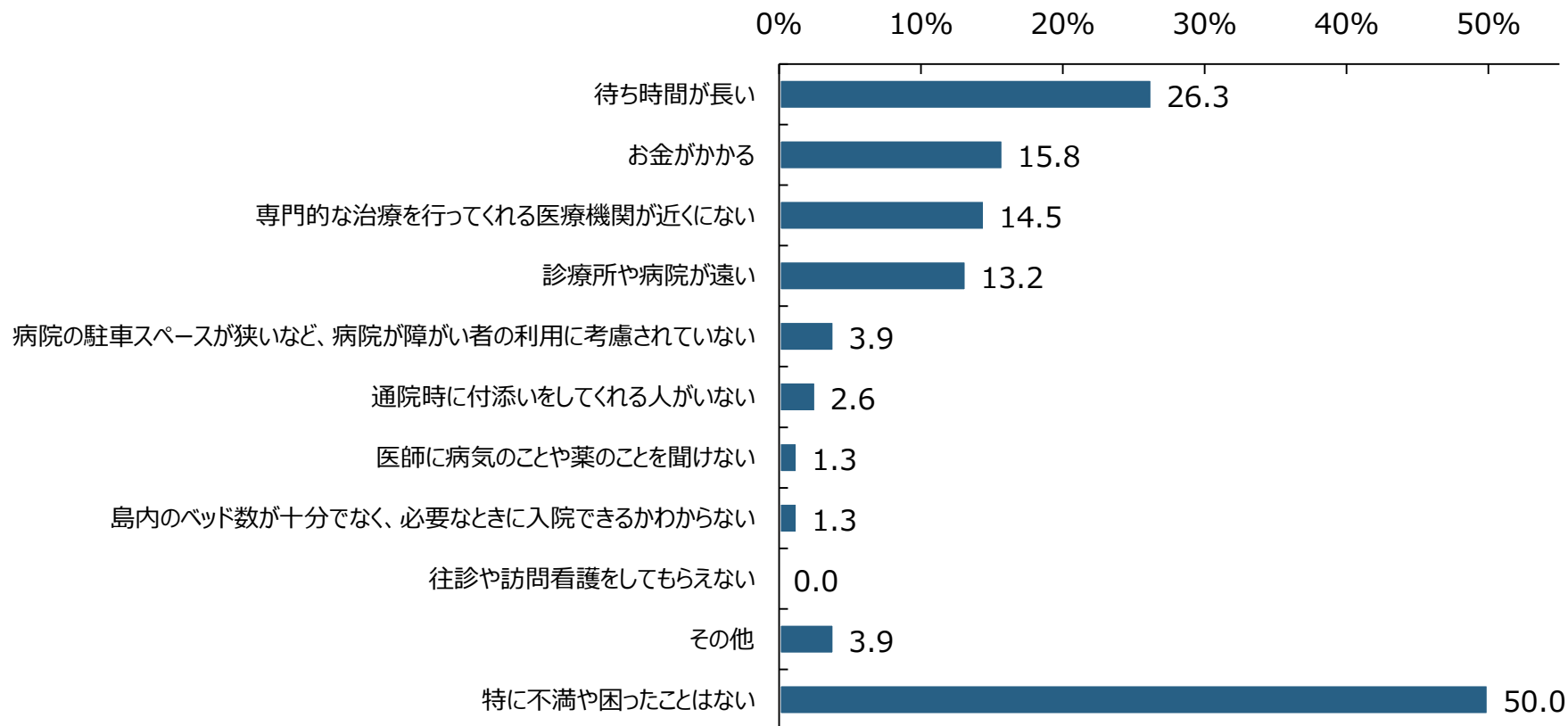
3.4 医療機関の利用頻度は1年間に数回と4週間に1回が大半

- 『医療機関にかかっている』とする人に医療機関の利用頻度を尋ねたところ、「1年間に数回程度通院（往診）している」（46.8%）と「4週間に1回程度通院（往診）している」（41.9%）とする割合がそれぞれ4割台となっている。以下「2週間に1回程度通院（往診）している」（8.1%）、「入院している」「1週間に1回程度通院（往診）している」（各1.6%）などとなっている。



3.5 医療について特に不満や困ったことはないとする割合が約5割

- 医療について困っていることを尋ねたところ（複数回答）、「待ち時間が長い」（26.3%）の割合が最も高く、以下「お金がかかる」（15.8%）、「専門的な治療を行ってくれる医療機関が近くにない」（14.5%）、「診療所や病院が遠い」（13.2%）などとなっている。
- 一方、「特に不満や困ったことはない」（50.0%）とする割合が5割となっている。

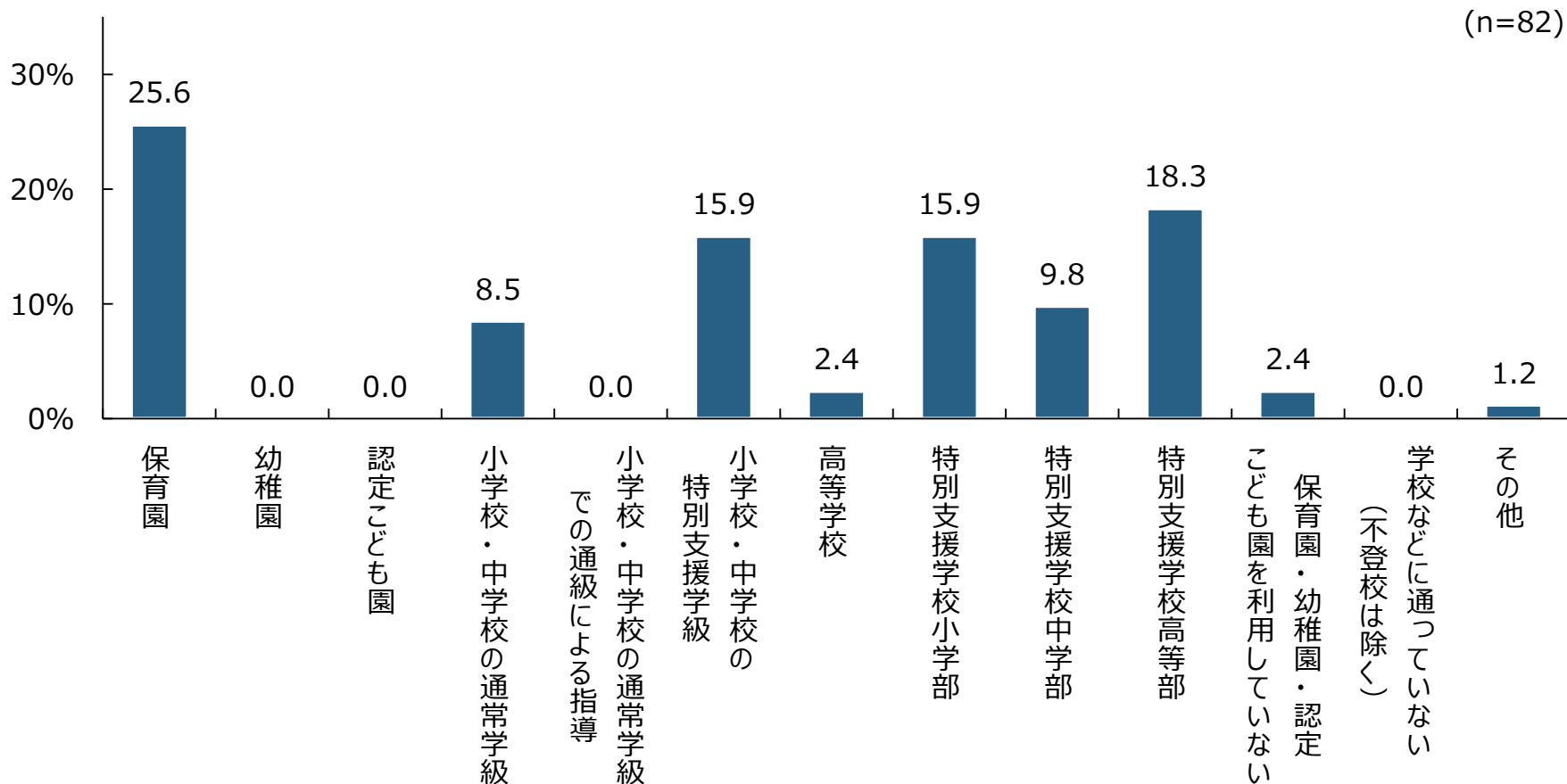


(n=76)

4. 現在の保育・就学状況と進学等の状況

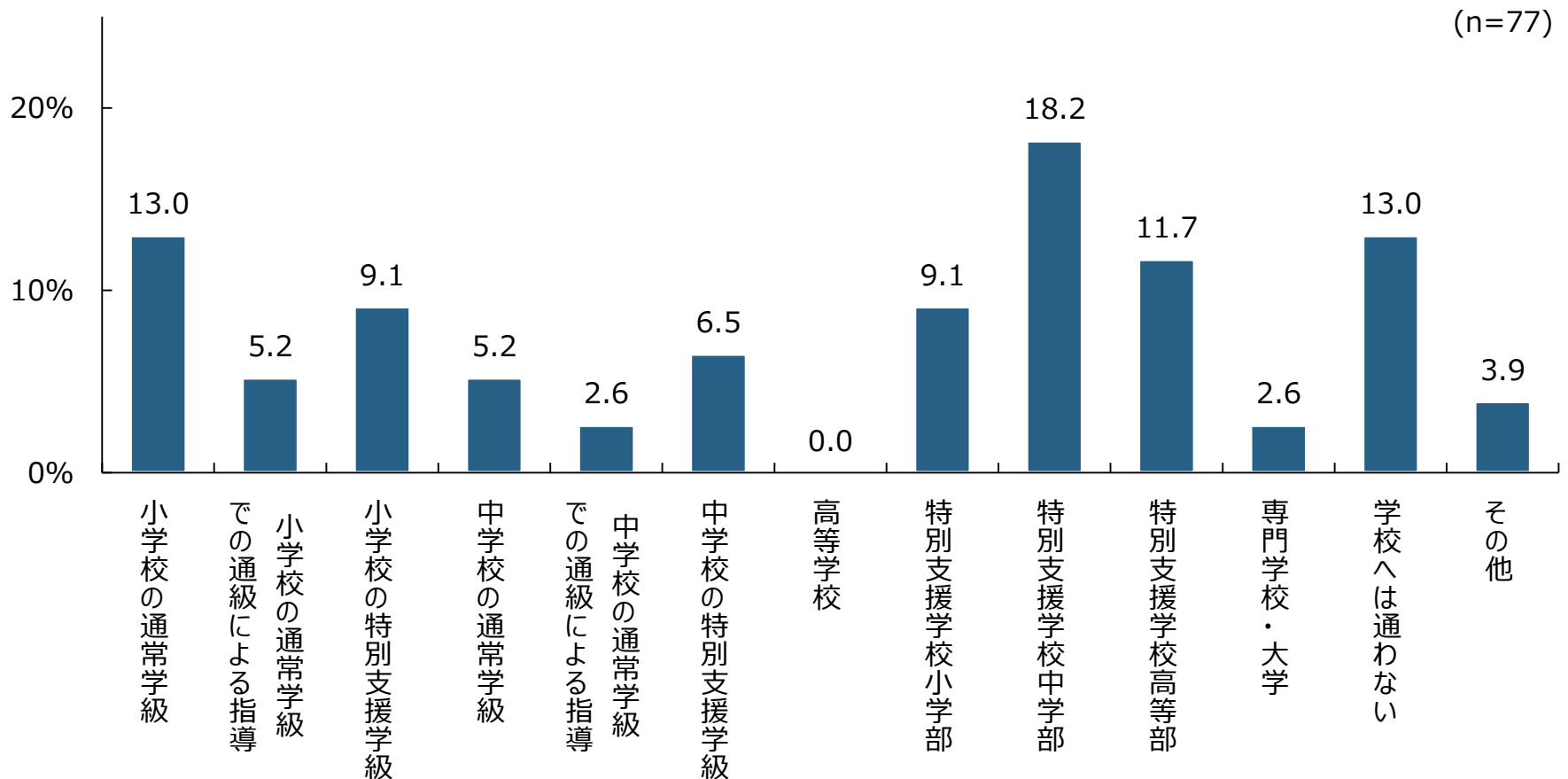
4.1 特別支援学級や特別支援学校への通学割合が高い

- 現在通っている保育園・学校・学級を尋ねたところ、未就学児では「保育園」が25.6%となっているのに対し、「保育園・幼稚園・認定こども園を利用していない」が2.4%となっている。
- 小学校・中学校の就学児では「小学校・中学校の特別支援学級」と「特別支援学校小学部」がそれぞれ15.9%で高く、以下「特別支援学校中学部」が9.8%、「小学校・中学校の通常学級」が8.5%などとなっている。また、高等学校の就学児では「特別支援学校高等部」が18.3%となっているのに対し、「高等学校」は2.4%となっている。



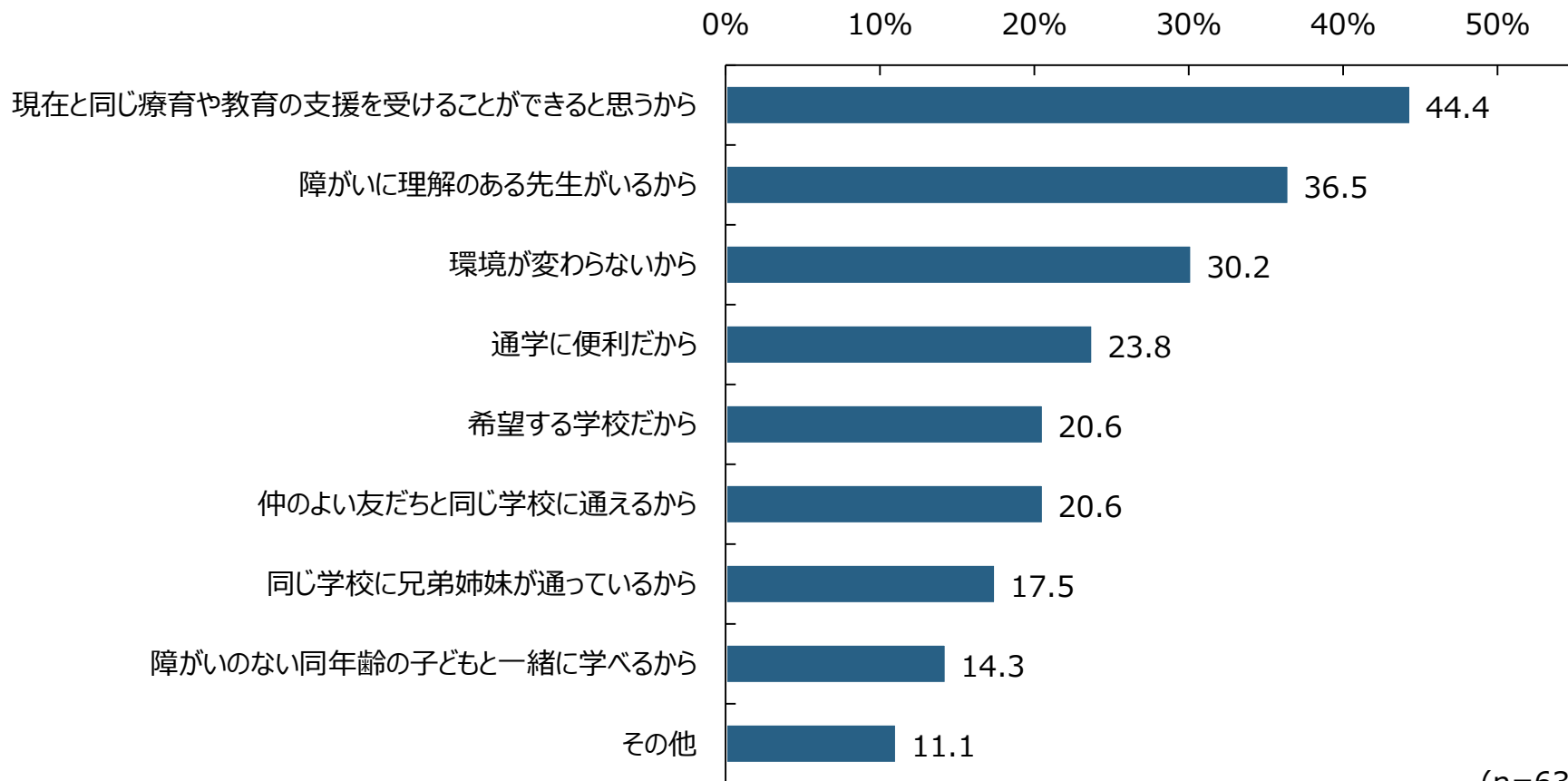
4.2 特別支援学校や特別支援学級への進学希望割合が高い

- 進学段階で就学したい学校・学級を尋ねたところ、小学校では「小学校の通常学級」（13.0%）が最も高い一方で、「小学校の特別支援学級」と「特別支援学校小学部」（各9.1%）が続き、次いで「小学校の通常学級での通級による指導」（5.2%）が続いている。
- 中学校では「特別支援学校中学部」（18.2%）が最も高く、「中学校の特別支援学級」（6.5%）が続いている。次いで「中学校の通常学級」（5.2%）、「中学校の通常学級での通級による指導」（2.6%）となっている。



4.3 現在と同じ療育や教育の支援を受けることができるがトップ

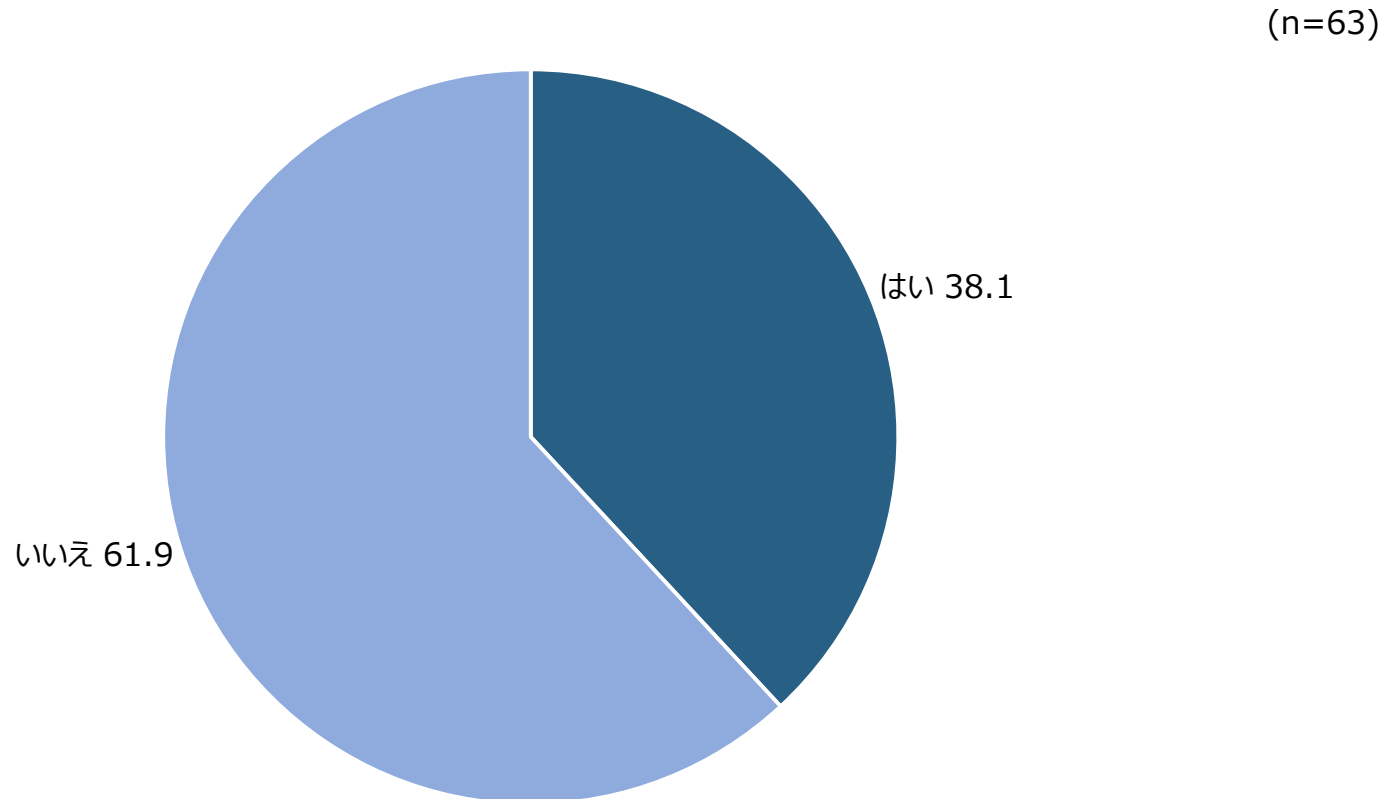
- 進学段階で就学したい学校・学級を選んだ理由を尋ねたところ（複数回答）、「現在と同じ療育や教育の支援を受けられると思うから」（44.4%）の割合が最も高く、以下「障がいに理解のある先生がいるから」（36.5%）、「環境が変わらないから」（30.2%）などとなっている。
- 「その他」（11.1%）の具体的な内容としては「将来を見据えた教育を受けた方が良いと思うから」（特別支援学校中学部希望）、「将来的にいじめ等（生徒、職員など）に不安を感じるから」（特別支援学校小学部希望）、「動かなくても何かしらの刺激を与えたい」（小学校の特別支援学級希望）などが挙げられている。



(n=63)

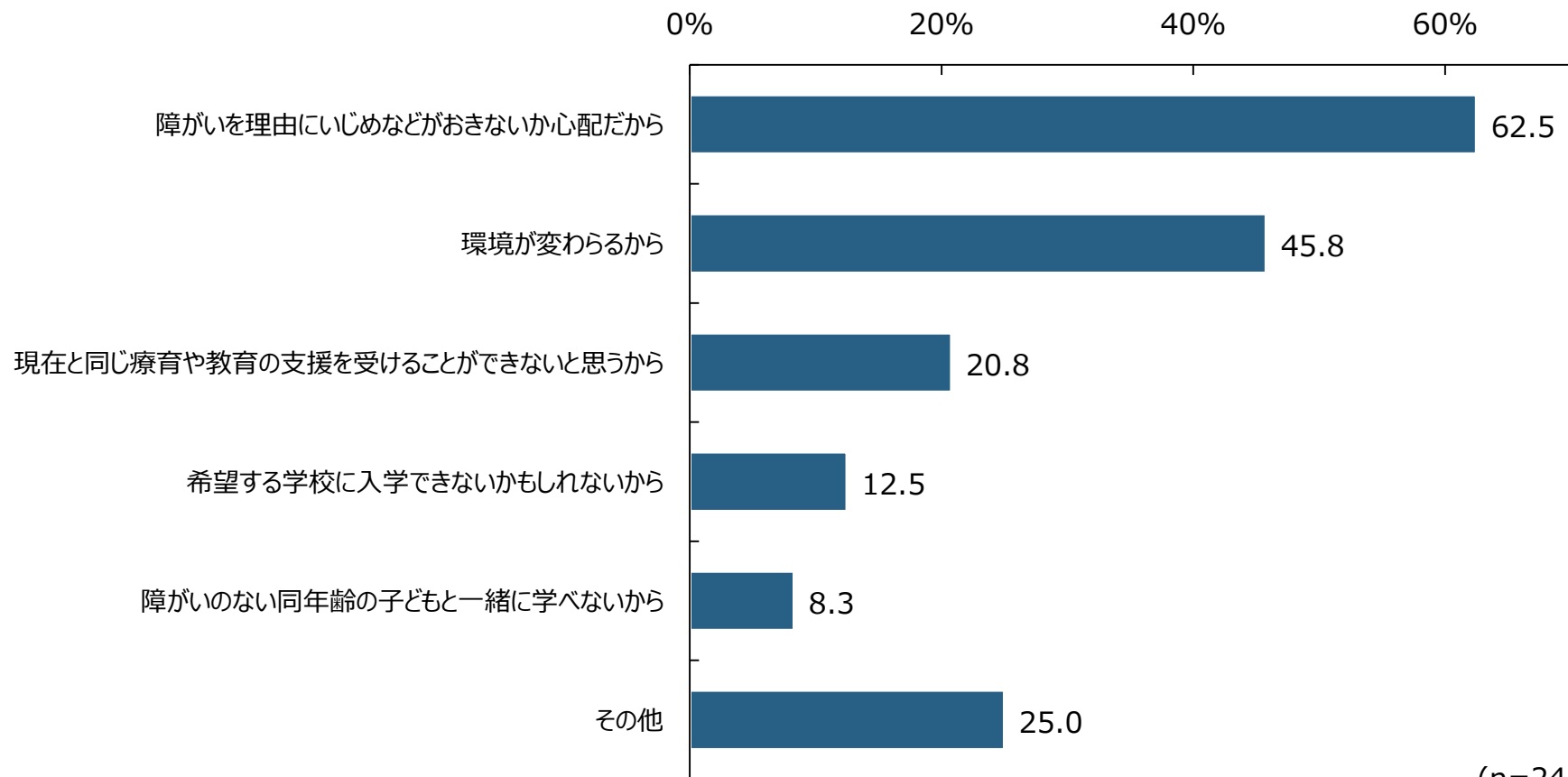
4.4 進学先の選択に悩んでいる人は約4割

- 進学段階の就学先を選ぶにあたって悩んでいることがあるかを尋ねたところ、「はい」(38.1%)とする割合が約4割、「いいえ」(61.9%)とする割合が約6割となっている。



4.5 いじめを不安視する悩みの割合が高い

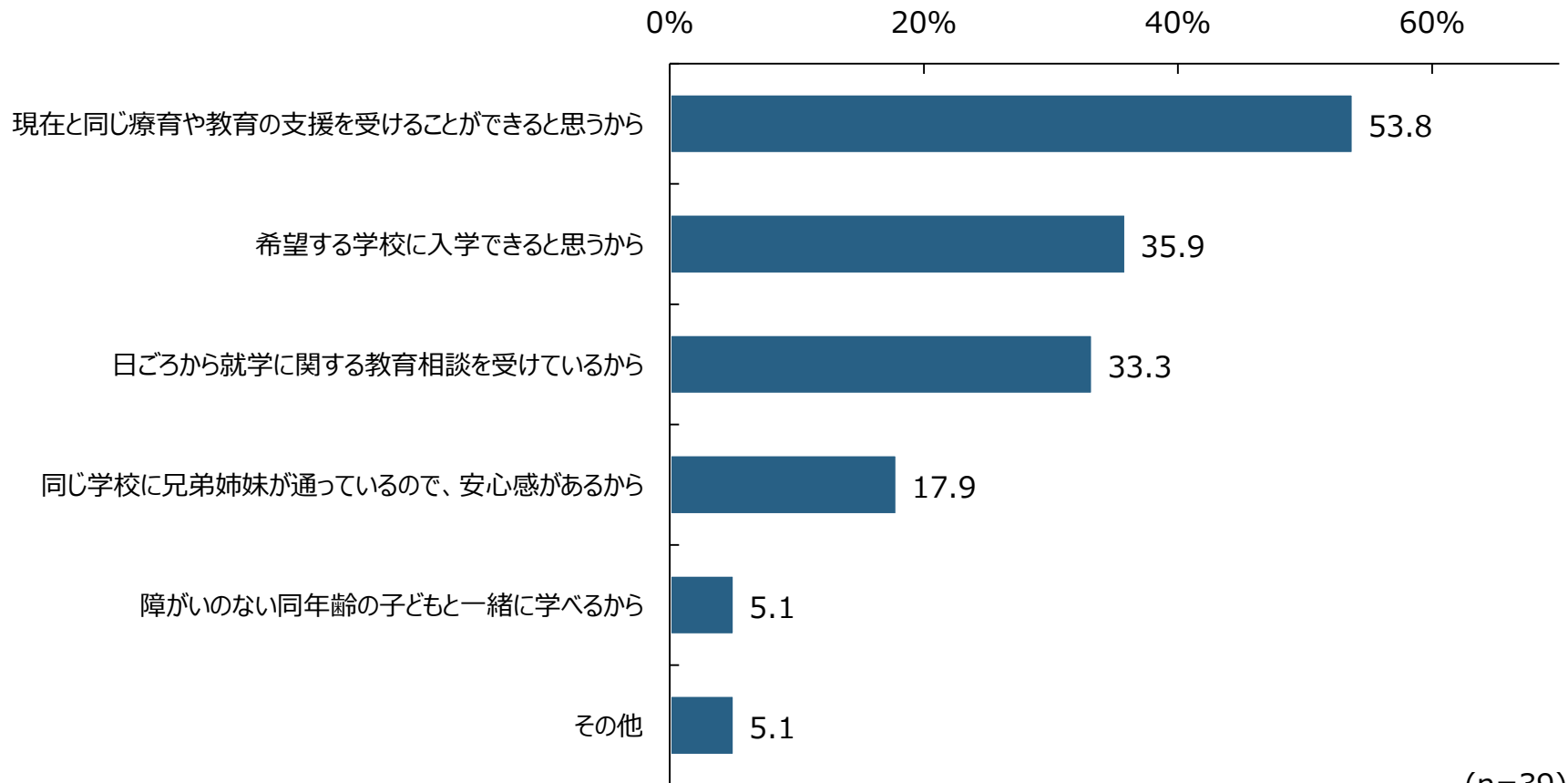
- 就学先を選ぶにあたって悩みがある（「はい」）と回答した人に悩みの理由を尋ねたところ（複数回答）、「障がい理由にいじめなどがおきないか心配だから」（62.5%）が特に高く、次いで「環境が変わるから」（45.8%）が続き、「その他」（25.0%）、「現在と同じ療育や教育の支援を受けることができないと思うから」（20.8%）などとなっている。
- 「その他」の具体的な内容としては「学校が遠い、送迎の確保」（特別支援学校中学部希望）、「普通の専門学校・大学での授業が不安」（専門学校・大学希望）、「症状が進んだら（知能低下）、行けない」（中学校の通常学級希望）などが挙げられている。



(n=24)

4.6 現在と同様の療育等が受けられるとする理由の回答割合が高い

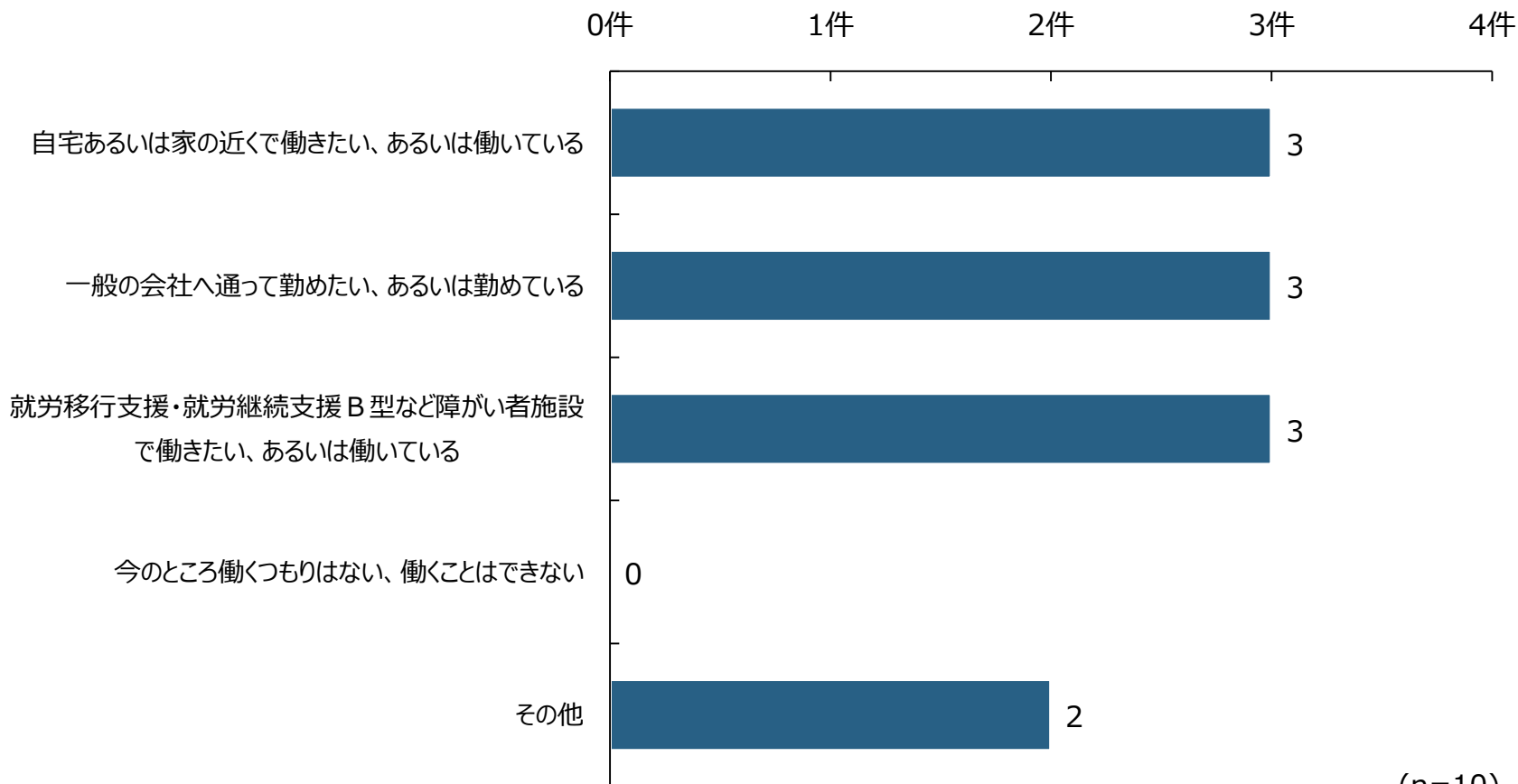
- 就学先を選ぶにあたって悩みがない（「いいえ」）と回答した人に悩んでいない理由を尋ねたところ（複数回答）、「現在と同じ療育や教育の支援を受けることができると思うから」（53.8%）が特に高く、以下「希望する学校に入学できると思うから」（35.9%）、「日ごろから就学に関する教育相談を受けているから」（33.3%）などとなっている。



(n=39)

4.7 学校へ通わない理由は何らかの形式で働きたいとするものが多い

- 進学段階で「学校へは通わない」と回答した人に就労に対する考えを尋ねたところ、「自宅あるいは家の近くで働きたい、あるいは働いている」「一般の会社へ通って勤めたい、あるいは勤めている」「就労移行支援・就労継続支援 B 型など障がい者施設で働きたい、あるいは働いている」が各 3 件などとなっている。

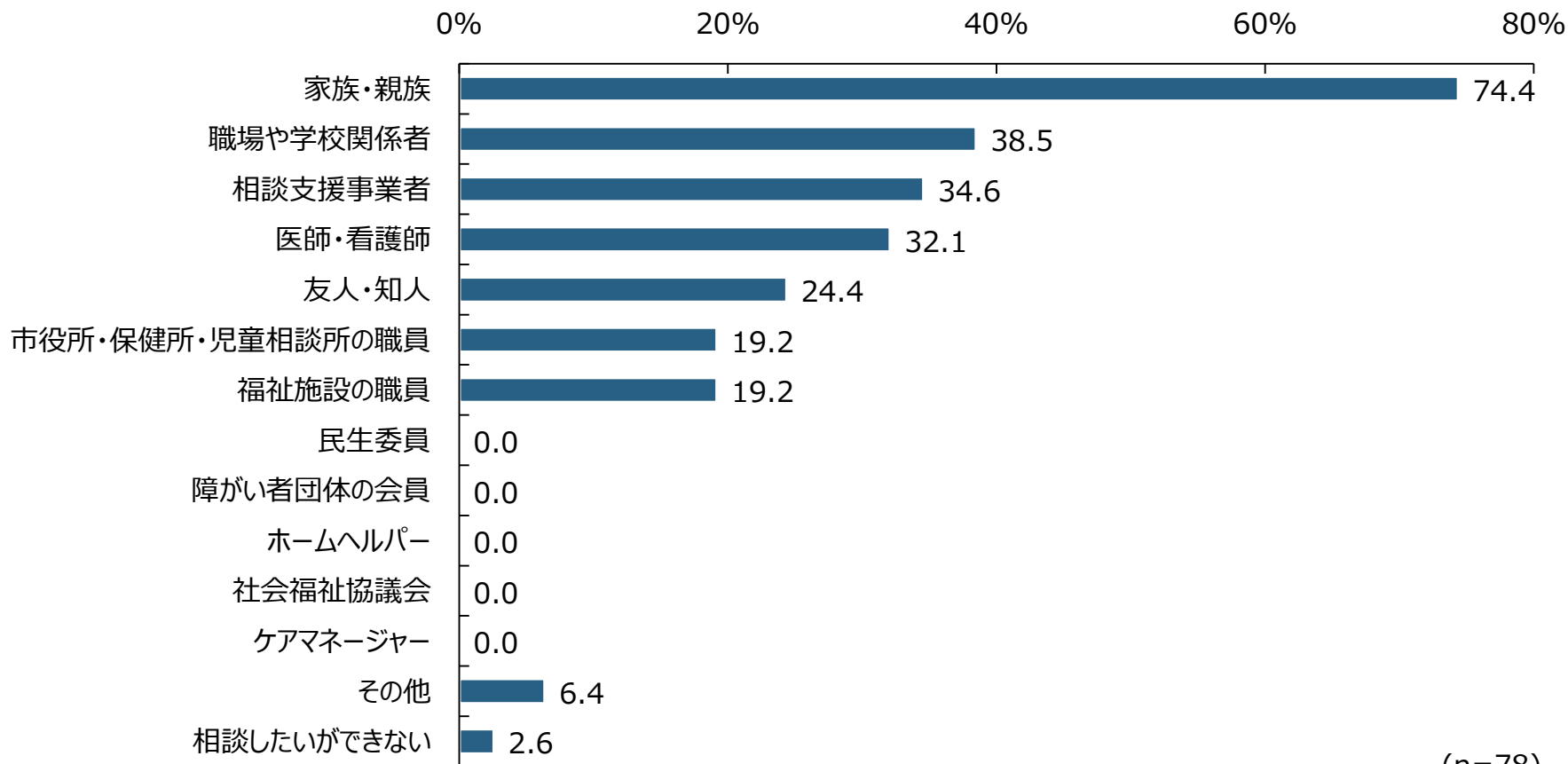


(n=10)

5. 普段の相談の状況

5.1 悩みや困ったことの相談相手は家族・親族がトップ

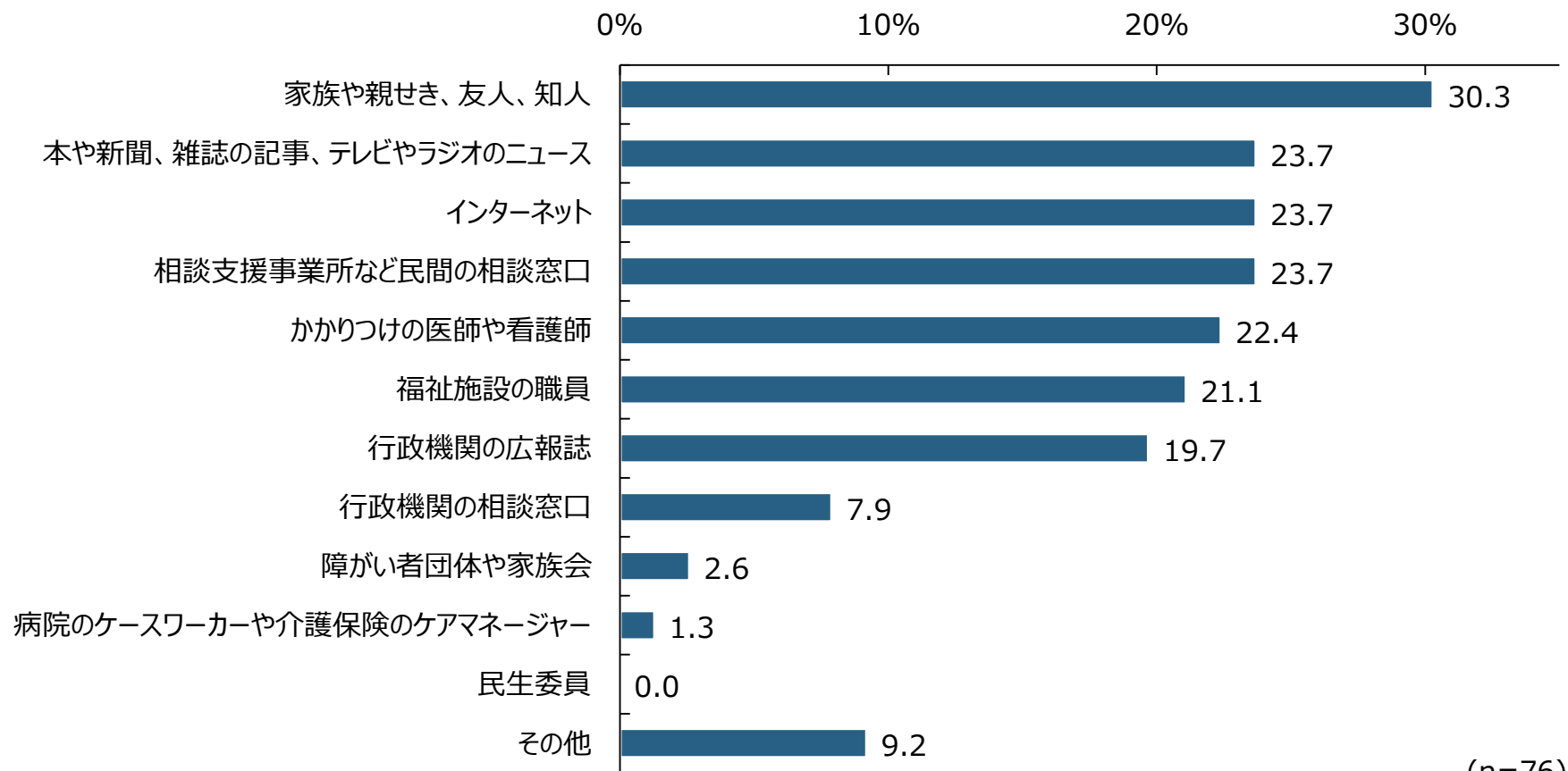
- 普段、悩みや困ったことを誰に相談するかを尋ねたところ（複数回答）、「家族・親族」（74.4%）の割合が7割台半ばで特に高く、以下「職場や学校関係者」（38.5%）、「相談支援事業者」（34.6%）、「医師・看護師」（32.1%）、「友人・知人」（24.4%）、「市役所・保健所・児童相談所の職員」「福祉施設の職員」（各19.2%）などとなっている。
- 一方、「相談したいができない」（2.6%）は少数となっている。相談できない理由としては「どこ（誰）に相談していいかわからない」「相談しても満足のいく回答が得られない」「プライバシー保護に不安がある」が各1件となっている。



(n=78)

5.2 情報の入手先も家族や親せきが最上位

- 障がいのことや福祉サービスなどに関する情報の入手先を尋ねたところ（複数回答）、「家族や親せき、友人、知人」（30.3%）の割合が最も高く、以下「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」「インターネット」「相談支援事業所など民間の相談窓口」（各23.7%）、「かかりつけの医師や看護師」（22.4%）、「福祉施設の職員」（21.1%）などとなっている。
- 「その他」（9.2%）の具体的な内容としては「学校」や「子育て支援センターや保育園など」「同じ病気の会の会報誌」などが挙げられている。



(n=76)

6. 障がい福祉サービスの利用状況と今後の利用予定

6.1 短期入所の利用が増える見込み

- 【A.訪問による支援】の利用状況を尋ねたところ、『①居宅介護（ホームヘルプ）』と『②居宅訪問型児童発達支援』について『利用している』との回答は皆無となっている。
 - 【B.昼間の生活支援】の利用状況を尋ねたところ、『④短期入所（ショートステイ）』について『利用している』との回答割合は9.6%となっている。また、今後の利用予定について「今よりも利用を増やす予定」（9.0%）と「今と同じくらい利用する予定」（9.0%）と「今よりも利用を減らす予定」（0.0%）を合わせた回答割合（以下『利用予定がある』）は18.0%と8.4ポイント上昇している。
- ※需要量（見込量）の増減見通しの表示は、『利用予定がある』-『利用している』が5.0%以上：「↑」、『利用予定がある』-『利用している』が▲2.0%以上5.0%未満：「→」、『利用予定がある』-『利用している』が▲2.0%未満：「↓」とした

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需要量 増減見通し（見込量）
		利用している	利用していない	増やす予定（甲）	今よりも利用する予定（乙）	減らす予定（丙）	（甲+乙+丙） 利用予定がある	利用予定がない	
A. 訪問による支援	①居宅介護（ホームヘルプ） (n=73) (n=67)	0.0	100.0	3.0	0.0	0.0	3.0	97.0	→
	②居宅訪問型児童発達支援 (n=72) (n=67)	0.0	100.0	1.5	0.0	0.0	1.5	98.5	→
	③保育所等訪問支援 (n=72) (n=62)	9.7	90.3	3.2	6.5	0.0	9.7	90.3	→
B. 昼間の生活の支援	④短期入所（ショートステイ） (n=73) (n=67)	9.6	90.4	9.0	9.0	0.0	18.0	82.1	↑

6.2 放課後等デイサービスや相談支援の利用が増える見込み

- 【C.施設に通う支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑤児童発達支援』について『利用している』との回答割合は34.2%となっている。今後の利用予定について『利用予定がある』とする回答割合は33.8%と同程度となっている。また、『⑦放課後等デイサービス』について『利用している』との回答割合は18.9%となっている一方、今後『利用予定がある』の回答割合は33.3%となり、需要量の増減見通しは14.4ポイント上昇している。
- 【D.相談支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑧相談支援』について『利用している』との回答割合は49.3%となっている一方、今後『利用予定がある』の回答割合は55.6%となり、需要量の増減見通しは6.3ポイント上昇している。

分類	サービス名 (回答数) 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況 (%)		今後の利用予定 (%)					の需要量 増減見通し (見込量)
		利用している	利用していない	増やす予定(甲)	今より利用する予定(乙)	減らす予定(丙)	(甲+乙+丙)	利用予定がない	
C. 施設に通う支援	⑤児童発達支援 (n=76) (n=65)	34.2	65.8	4.6	29.2	0.0	33.8	66.2	→
	⑥医療型児童発達支援 (n=71) (n=67)	1.4	98.6	6.0	1.5	0.0	7.5	92.5	↑
	⑦放課後等デイサービス (n=74) (n=69)	18.9	81.1	15.9	17.4	0.0	33.3	66.7	↑
D. 相談支援	⑧相談支援 (n=73) (n=63)	49.3	50.7	55.6	0.0	0.0	55.6	44.4	↑

6.3 日中一時支援の利用率は2割強

- 【E.入所による支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑨福祉型児童入所施設』について『利用している』との回答割合は6.8%と1割に満たないほか、「⑩医療型児童入所施設」について『利用している』との回答は皆無となっている。
- 【G.その他の支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑫地域活動支援』『⑬コミュニケーション支援』について『利用している』との回答はそれぞれ皆無となっている。ただし、『⑫地域活動支援』について、今後『利用予定がある』の回答割合は10.3%となり、需要量の増減見通しは10.3ポイント上昇している。

分類	サービス名 (回答数) 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況 (%)		今後の利用予定 (%)					の需 増 減 見 通 し (見 込 量)
		利 用 し て い る	利 用 し て い な い	増 や 予 定 (甲)	今 より も 利 用 を す る 予 定 (乙)	利 用 と 同 じ 予 定 を す る 予 定 (丙)	減 ら 予 定 (甲)	今 より も 利 用 を す る 予 定 (乙)	
E. 入所による支援	⑨福祉型児童入所施設 (n=73)	6.8	93.2	10.4	0.0	0.0	10.4	89.6	→
	⑩医療型児童入所施設 (n=67)	0.0	100.0	2.9	0.0	0.0	2.9	97.1	→
F. 補装具による支援	⑪補装具の交付・修理 (n=72)	6.8	93.2	7.4	0.0	0.0	7.4	92.6	→
G. その他の支援	⑫地域活動支援 (n=68)	0.0	100.0	7.4	2.9	0.0	10.3	89.7	↑
	⑬コミュニケーション支援 (n=73)	0.0	100.0	1.4	0.0	0.0	1.4	98.6	→
	⑭日常生活用具の給付 (n=69)	4.1	95.9	2.9	0.0	0.0	2.9	97.1	→

6.4 移動支援と日中一時支援などの利用が増える見込み

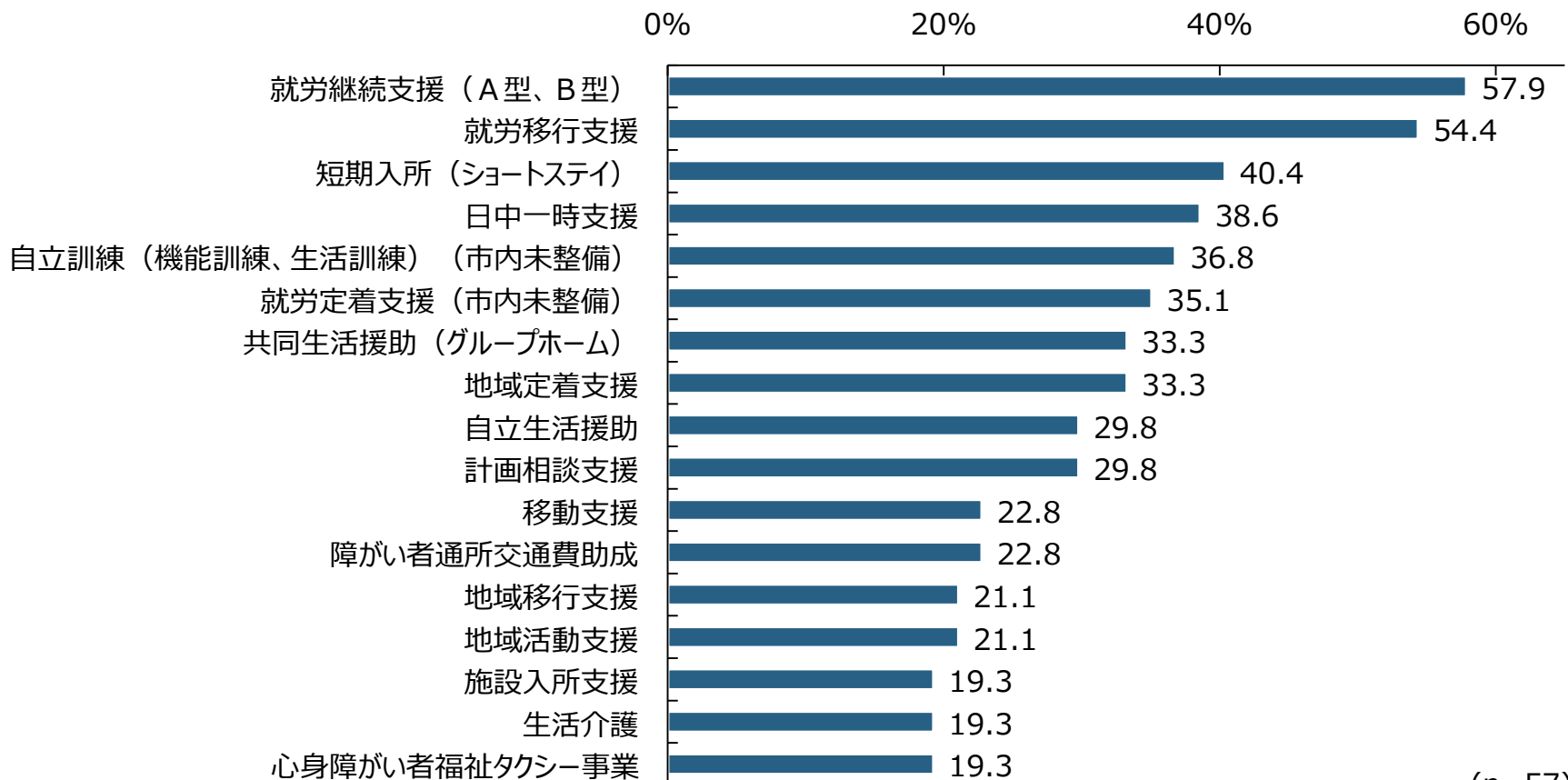
- 【G.その他の支援】の利用状況を尋ねたところ、『⑮移動支援』『⑰訪問入浴』『⑱自動車改造費の助成』について『利用している』との回答はそれぞれ皆無となっている。一方、『⑯日中一時支援』について『利用している』とする回答割合は23.3%となっている一方、今後『利用予定がある』とする回答割合は30.0%と6.7ポイント上昇している。
- また、『⑲心身障がい者福祉タクシー事業』について『利用している』（9.9%）との回答は約1割となっているほか、『⑳精神障がい者医療費助成』と『㉑障がい者通院交通費』について『利用している』との回答はそれぞれ1割に満たない。

分類	サービス名（回答数） 上段：現在の利用予定の回答数 下段：今後の利用意向の回答数	利用状況（%）		今後の利用予定（%）					の需 増 減 見 通 し （ 見 込 量 ）
		利 用 し て い る	利 用 し て い な い	増 や 予 定 （ 甲 ）	今 よ り も 利 用 を （ 乙 ）	利 用 と 同 じ く ら い （ 乙 ）	減 ら 予 定 （ 丙 ）	今 よ り も 利 用 を （ 丙 ）	
G. その他の支援	⑮移動支援 (n=73) (n=68)	0.0	100.0	7.4	1.5	0.0	8.9	91.2	↑
	⑯日中一時支援 (n=73) (n=70)	23.3	76.7	10.0	20.0	0.0	30.0	70.0	↑
	⑰訪問入浴 (n=73) (n=69)	0.0	100.0	0.0	1.4	0.0	1.4	98.6	→
	⑱自動車改造費の助成 (n=71) (n=67)	0.0	100.0	3.0	0.0	0.0	3.0	97.0	→
	⑲心身障がい者 福祉タクシー事業 (n=71) (n=67)	9.9	90.1	11.9	0.0	0.0	11.9	88.1	→
	⑳精神障がい者医療費助成 (n=73) (n=69)	2.7	97.3	8.7	0.0	0.0	8.7	91.3	↑
	㉑障がい者通院交通費 (n=72) (n=69)	5.6	94.4	7.2	0.0	0.0	7.2	92.8	→

6.5 就労や自立に向けたサービスが上位

- 18歳以上になった際に利用したいサービスを尋ねたところ（複数回答）、「就労継続支援 A 型、B 型」（57.9%）と「就労移行支援」（54.4%）の割合が高く、以下「短期入所（ショートステイ）」（40.4%）、「日中一時支援」（38.6%）、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）」（36.8%）、「就労定着支援」（35.1%）「共同生活援助（グループホーム）」「地域定着支援」（各33.3%）などとなっている。

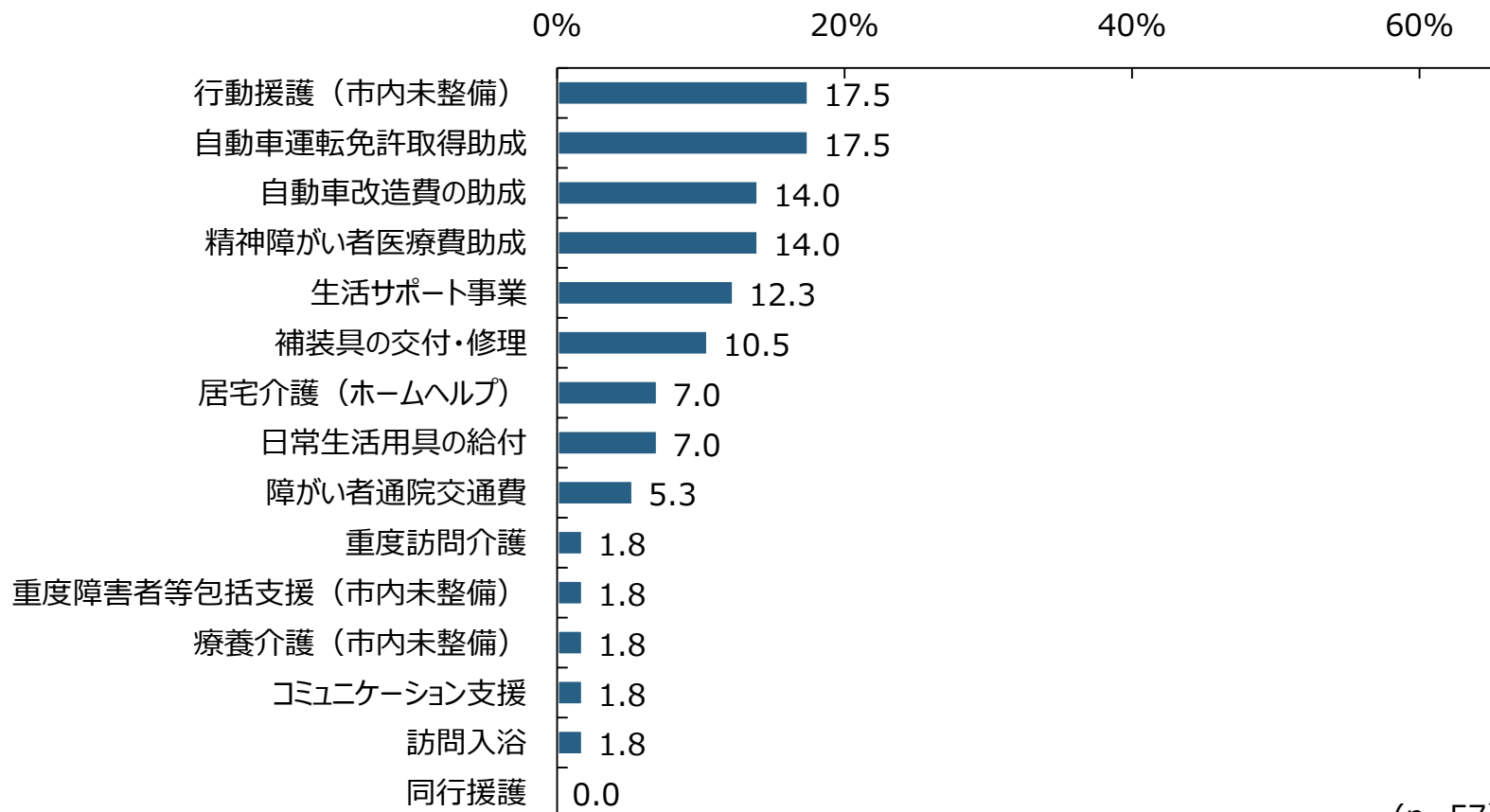
18歳以上になった場合に利用したいサービス上位17項目



(n=57)

6.6 就労や自立に向けたサービスが上位

18歳以上になった場合に利用したいサービス下位15項目

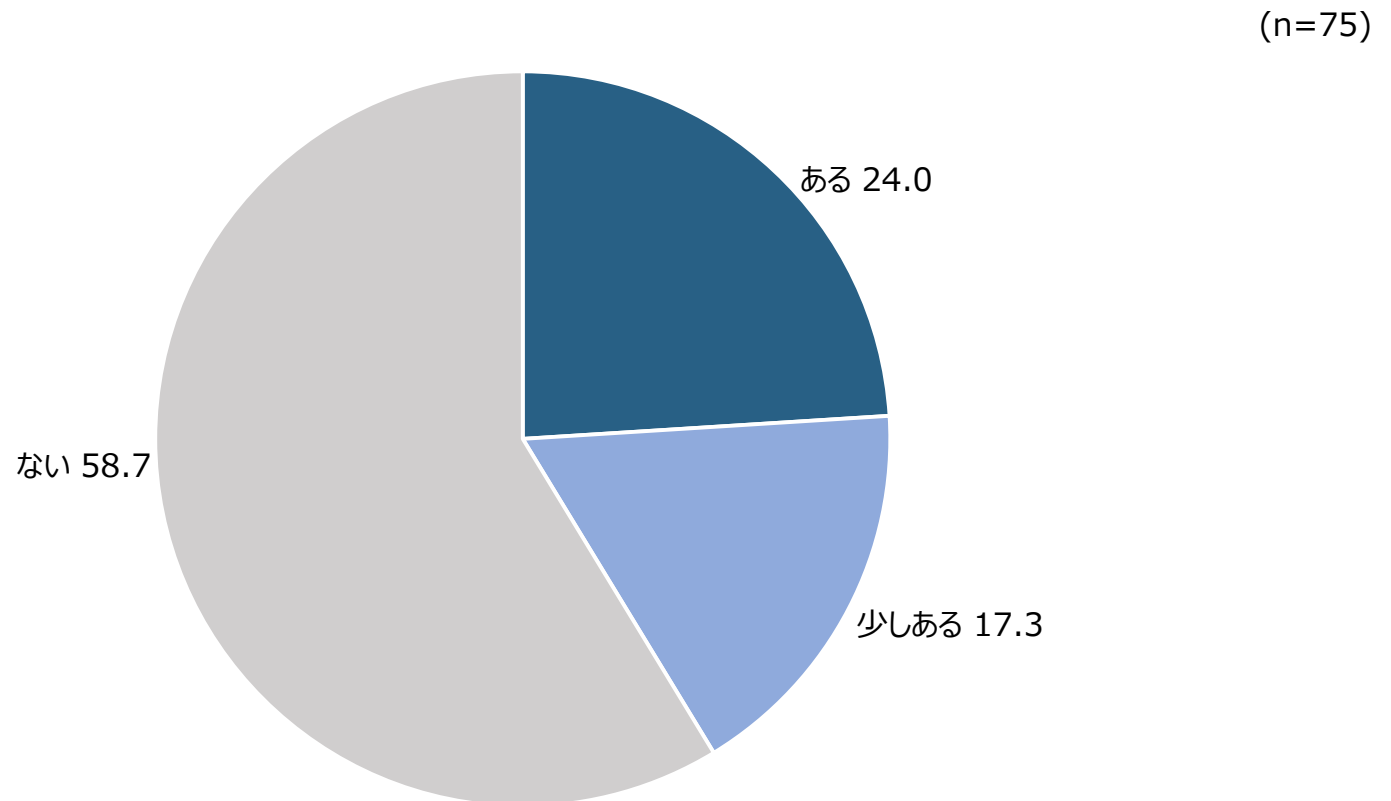


(n=57)

7. 権利に関することについて

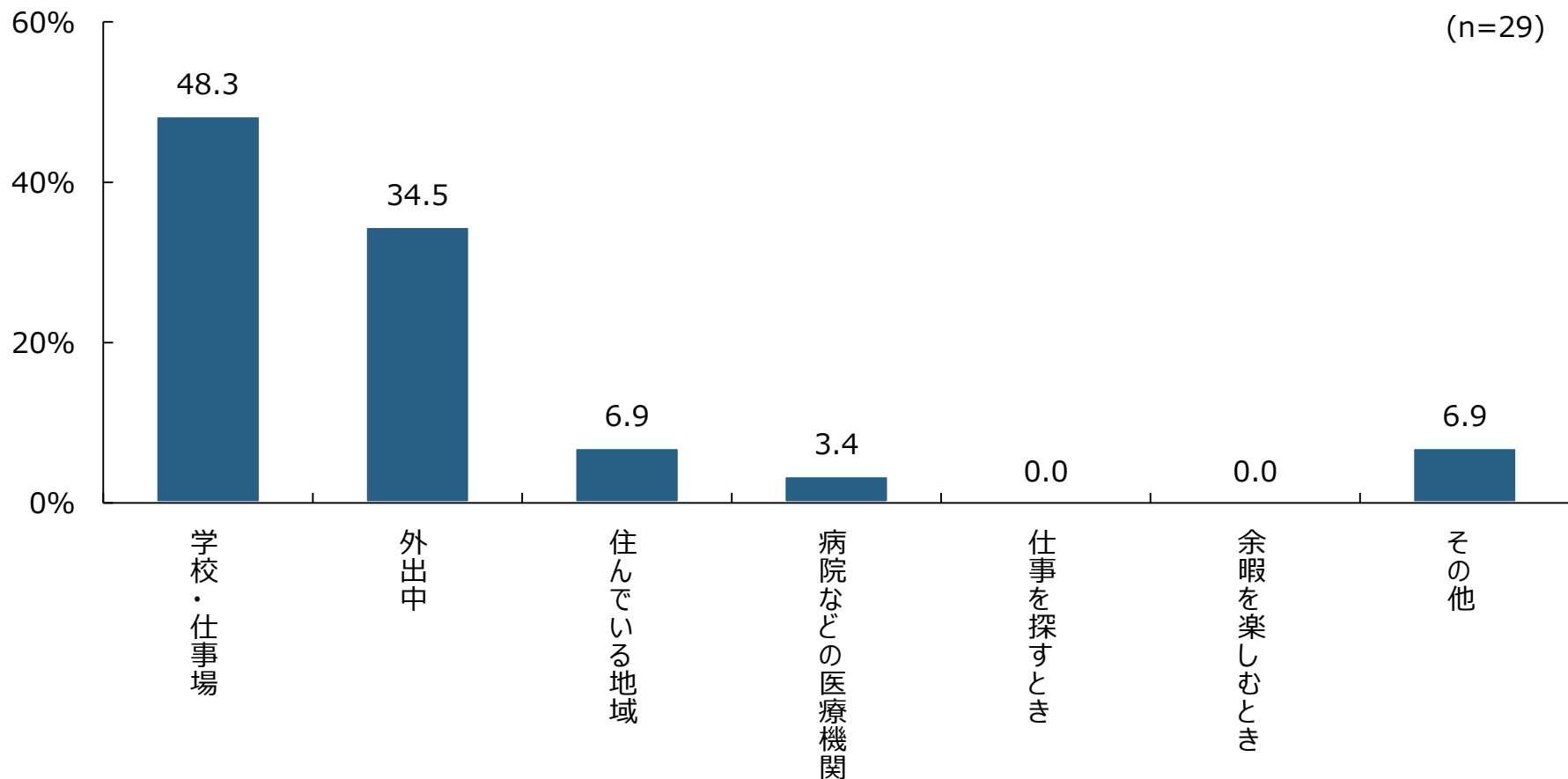
7.1 差別を感じたことがある人は4割強

- 障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるか否かを尋ねたところ、「ある」が24.0%、「少しある」が17.3%となり、2つを合わせた『差別等を受けたことがある』（41.3%）とする人は4割強となっている。



7.2 差別を感じる場所は学校・仕事場が多い

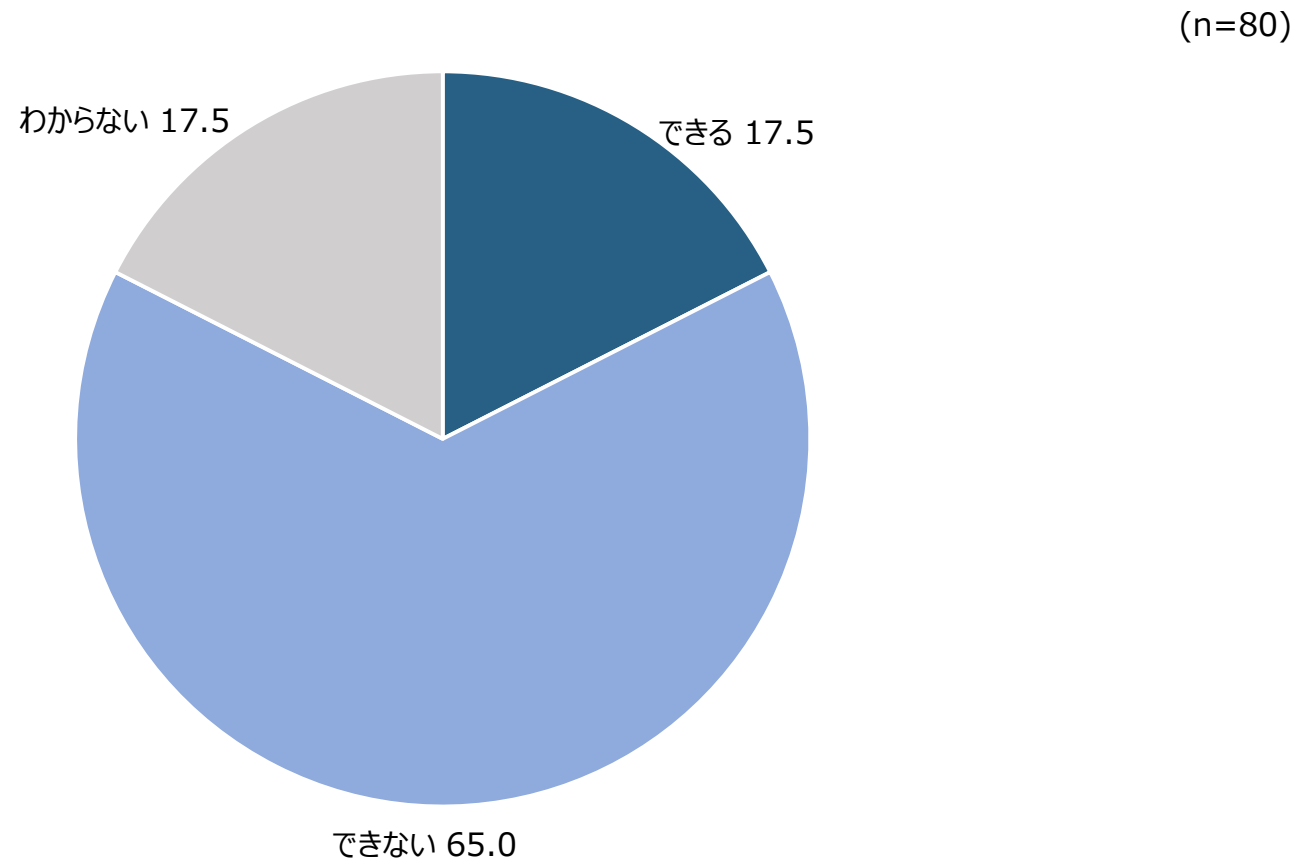
- 『差別等を受けたことがある』とした人に差別や嫌な思いをした場所を尋ねたところ、「学校・仕事場」（48.3%）の割合が最も高く、次いで「外出中」（34.5%）などとなっている。



8. 災害時の避難などについて

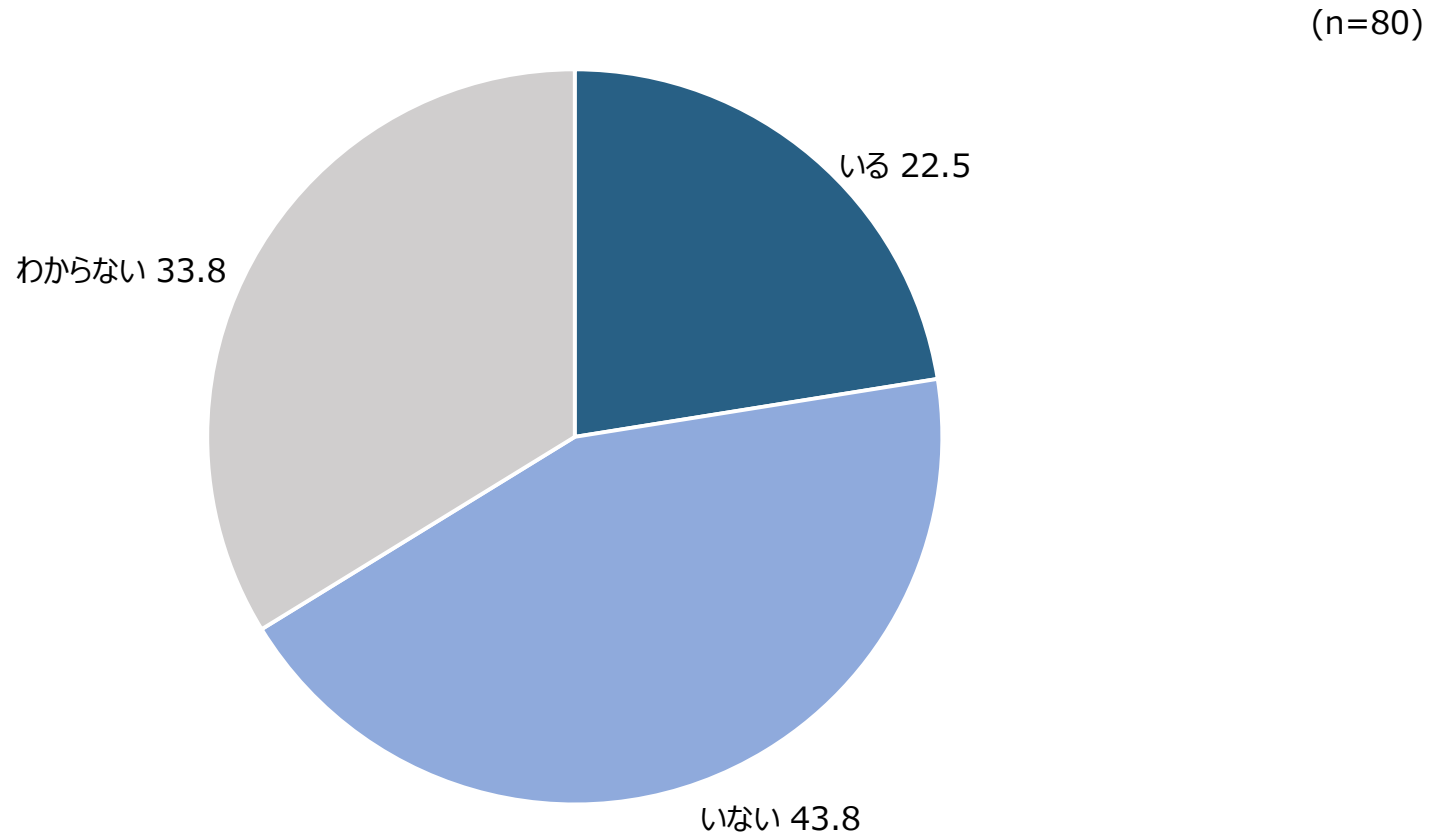
8.1 災害時に1人で避難できると思う人は2割弱

- 火事や地震などの災害時に1人で避難できるか否かを尋ねたところ、「できる」(17.5%)が2割弱にとどまる一方、「できない」(65.0%)が6割台半ばとなっている。また、「わからない」(17.5%)が2割弱となっている。



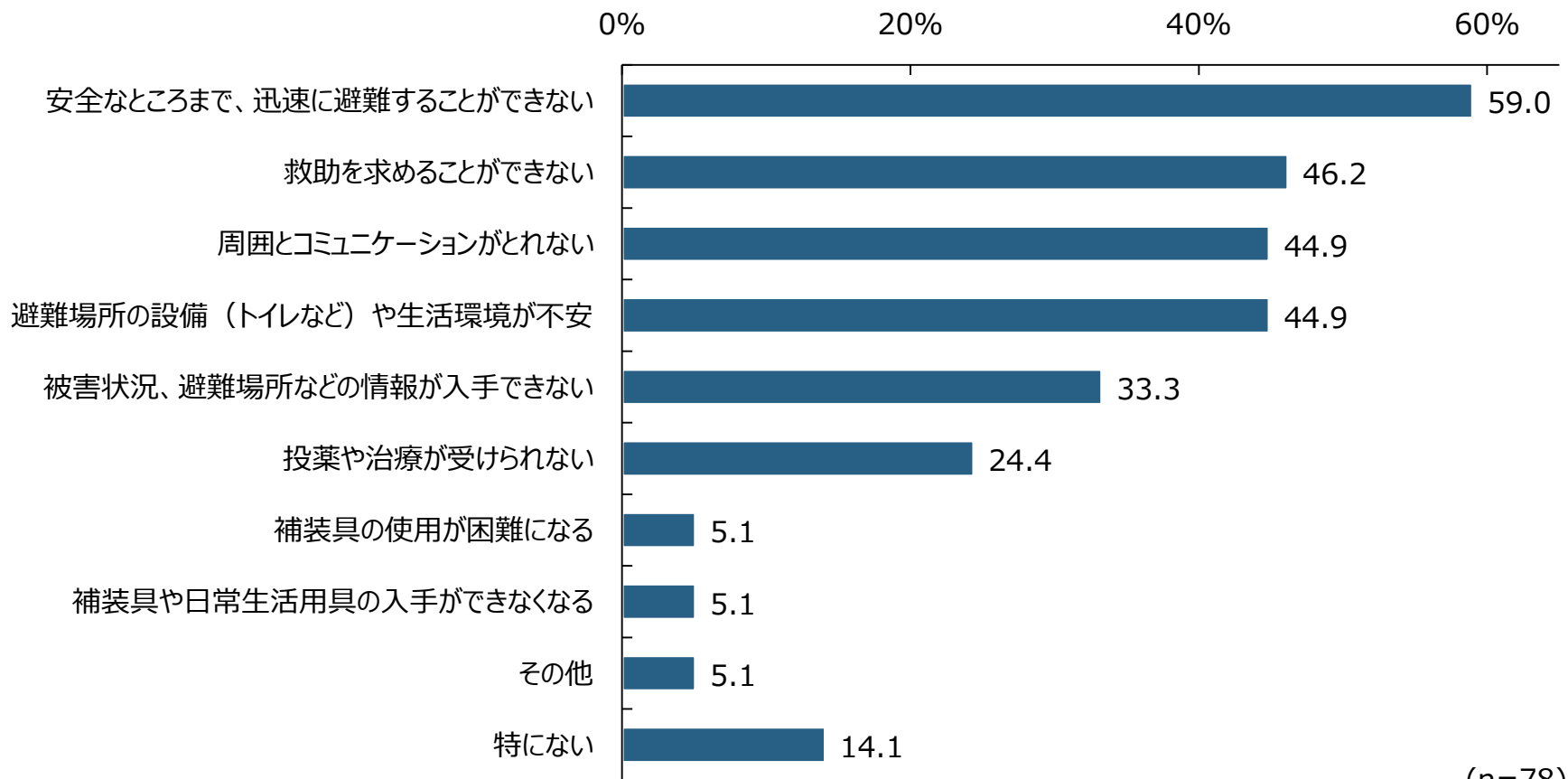
8.2 災害時に近所で助けてくれる人がいると思う人は2割強

- 災害時に家族が不在の場合や一人暮らしの場合で、近所に助けてくれる人がいるか否かを尋ねたところ、「いる」(22.5%)が2割強にとどまる一方、「いない」(43.8%)が4割強となっている。また、「わからない」(33.8%)が3割強となっている。



8.3 災害時に最も困ることは迅速に避難できないこと

- 災害時に困ることを尋ねたところ（複数回答）、「安全なところまで、迅速に避難することができない」（59.0%）の割合が最も高く、以下「救助を求めることができない」（46.2%）、「周囲とコミュニケーションがとれない」「避難場所の設備（トイレなど）や生活環境が不安」（各44.9%）、「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」（33.3%）などとなっている。
- 一方、「特にない」（14.1%）は1割台半ばとなっている。



(n=78)